

7 様式例

(1) 個別の教育支援計画

取扱注意

個別の教育支援計画

7
様式例

学校・園名			
(ふりがな) 氏 名			
私は、個別の教育支援計画の内容を確認しました。			
年度	年度	年度	年度
学年	年	年	年
確 認 日	月 日	月 日	月 日
③保護者印			
②校長印			
①担任印			

取扱注意

個別の教育支援計画

年 月 日 記入者()

年 月 日 記入者()

年 月 日 記入者()

ふりがな 幼児児童生徒氏名				幼児児童生徒住所	〒 - 電話番号() -
生年月日 年 月 日 年齢		年 月 日 歳			
ふりがな 保護者氏名		続柄 []		保護者住所	〒 - 電話番号() -
福祉	手帳	療育手帳	(判定) (交付年月日)		
		身体障害者手帳	(判定) (交付年月日)		
		精神障害者保健福祉手帳	(判定) (交付年月日)		
	装具等	☐ 眼鏡 ☐ 車椅子 ☐ 歩行補助つえ ☐ 下肢装具 ☐ 補聴器(片耳{右・左}、両耳) ☐ 人工内耳(片耳{右・左}、両耳) ☐ その他()			
医療	服薬	☐ 有() ☐ 無			
	アレルギー	☐ 有() ☐ 無			
	医療的ケア	☐ 有() ☐ 無			
	特記事項				
家族状況	家族構成				
	特記事項				
生育歴					
療育・教育歴					
特記事項					

取扱注意

幼児児童生徒氏名()

本人の状況	生活実態				
	興味・関心				
	その他				
本人のニーズ					
保護者のニーズ					
学校・園における支援	支援目標				
	主な支援内容				
他の関係機関における支援内容					
家庭生活		地域生活	福祉関係	医療関係	労働関係

評価・改善		
年度	年度	年度

<次年度の担任等に引き継いだ期日(1年次)> 年 月 日 次年度担任等()
 <次年度の担任等に引き継いだ期日(2年次)> 年 月 日 次年度担任等()
 <次年度の担任等に引き継いだ期日(3年次)> 年 月 日 次年度担任等()

※発達段階や障がいの状態等、個々の実態に応じて項目の追加・修正をしてください。

※定期的に評価し、本人の状況や本人・保護者のニーズ、学校・園や関係機関の支援について修正しましょう。

取扱注意

連携の記録(受診・懇談・会議・相談等)

幼児児童生徒氏名()

開催年月日	構成員(機関名)	主な内容
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	

個別の教育支援計画

- ★3年間を目安に作成するため、3年ごとに書き込む様式を掲載しています。
- ★記載内容について、本人・保護者や、校内の特別支援教育の担当者が同意しているという署名及び押印による確認を行きましょう。
- ★切れ目ない支援のために、次年度の担任等へ確実に引き継ぎましょう。卒業等によって、学校種や学びの場が変わる場合も同様です。
- ★個人情報が含まれるため、関係機関等との情報共有に当たっては、事前に本人・保護者の同意を得ましょう。
- ★個別の教育支援計画は、指導要録の指導に関する記録の保存期間を参考に、5年間保存することが文書管理上望ましいと考えられます。学校の設置者である当該市町村(学校組合)教育委員会に、保存方法について確認しておきましょう。

学校・園名

(ふりがな)
氏 名

私は、個別の教育支援計画の内容を確認しました。

年度

年度

年度

年度

学年

年

年

年

確 認 日

月 日

月 日

月 日

③保護者印

②校長印

① 担任印

個別の教育支援計画

年 月 日 記入者()

年 月 日 記入者()

年 月 日 記入者()

ふりがな 幼児児童生徒氏名				1ページ目の内容は、詳細な個人情報のため、保護者に記載していただくか、聞き取りながら記載します。保護者の希望で記入しない項目があっても構いません。	
生 年 月 日 年 齢		年 月 日 歳			
ふりがな 保護者氏名		続柄 []		保護者氏名	
福 祉	手 帳	療 育 手 帳	(判 定)	加筆・修正は、新たなシートに記入するのではなく、このシートに記載していきます。その際、以前の記載事項は二重線を引くなどして残しておきます。記入者・記入日を記入します。	
		身 体 障 害 者 手 帳	(判 定)		
		精神障害者保健福祉手帳	(判 定)		
社	装 具 等	☐ 眼鏡 ☐ 車椅子 ☐ 歩行補助つえ ☐ 下肢装具 ☐ 補聴器(片耳{右・左}、両耳) ☐ 人工内耳(片耳{右・左}、両耳) ☐ その他()			
医 療	服 薬	☐ 有() ☐ 無			
	アレルギー	☐ 有() ☐ 無			
	医療的ケア	☐ 有() ☐ 無			
療	特記事項	医師等の指示による日常生活における配慮事項等を記入します。			
家 族 状 況	家族構成				
	特記事項	家族以外の支援者が、支援する上で知っておいた方がよいことがあれば記入します。			
生 育 歴		出産時の様子や子育てで気になった点(運動・言語・対人関係等)などを母子手帳などの記録をもとに記入します。1歳半健診、3歳児健診、5歳児健診の様子も含めて記入します。			
療 育 ・ 教 育 歴		今までの病院の受診歴、教育相談歴、発達検査等を受けている場合はその結果、センター的機能や通級の活用状況 等			
特 記 事 項		療育手帳等を持っている場合は、福祉のサービス等との関係上、把握しておくべきことを記載しておきます。			

取扱注意

本人の興味・関心のあること、得意なことや好きなことなどは、指導や支援の手がかりとして重要です。

本人の状況	生活実態	最近の本人の様子について 一日の過ごし方について特徴的なこと 家族・友達との関わり 情緒面 等
	興味・関心	学校等での活動(クラブ活動など) 地域での活動への参加の様子 夢中になっていることなど特徴的なこと 等
	その他	性格、行動やコミュニケーションの特徴 等
本人のニーズ		把握が難しい場合は、支援者の観察や本人のつぶやき等から捉えます。保護者の願いと異なる場合もありますが、あくまでも本人の思いや願いを記載します。
保護者のニーズ		卒業後の将来の姿を想像しながら、中・長期的な見通しも記載します。小・中・高等学校等への進学だけではなく、就労等への思いや願いなども記載します。
学校における支援	支援目標	原案を立てた後、校内委員会等による検討により作成します。 <支援目標> 長期的なスパン(2~3年後)を見据えて設定 <支援内容> ……の環境を整える ……の場を設定する ……が経験できる活動を増やす ……に配慮する ※交流及び共同学習も必要があれば記入します。
	主な支援内容	
他の関係機関		
家庭生活	地域生活	
<記載内容> ○関わりのある関係機関・連絡先・担当者 等 ○主な支援内容・配慮事項 等 ※関係機関には、放課後等デイサービスや保育所等訪問支援事業を行う者(指定障害児通所支援事業者等)、保健所等も含まれます。		

評価・改善		
年度	年度	年度
年間の取組を振り返り、支援したことによる児童生徒等の変化や、支援に対する評価と改善の要点を記入し、次年度の担任等に確実に引き継ぎます。 3年次には、次の2~3年後を見据えた振り返りを行います。		

<次年度の担任等に引き継いだ期日(1年次)> 年 月 日 次年度担任等()
 <次年度の担任等に引き継いだ期日(2年次)> 年 月 日 次年度担任等()
 <次年度の担任等に引き継いだ期日(3年次)> 年 月 日 次年度担任等()

※ 発達段階や障がいの状態等、個々の実態に応じて項目の追加・修正をしてください。

※ 定期的に評価し、本人の状況や本人・保護者のニーズ、学校・園や関係機関の支援について修正しましょう。

取扱注意

連携の記録（受診・懇談・会議・相談等）

幼児児童生徒氏名（ ）

開催年月日	構成員（機関名）	主な内容
年 月 日		
受診や懇談、会議、相談等の連携の記録を残し、幼児期から学校卒業後までの一貫した支援に役立てます。		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

(2) 個別の指導計画

① 自立活動用

年度 個別の指導計画【自立活動】

児童生徒名	年 組〔 〕	作成者	
-------	--------	-----	--

Ⅰ 児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

--

(2) (1)の情報を、6区分で整理

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション

(3) (1)の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

--

2 長期目標（年間の指導目標）

--

3 必要な項目

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体の移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛りとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容（区分と項目・教科等・担当者）

--

5 短期目標（学期ごとの指導目標）と評価

	1 学期	2 学期	3 学期
短期目標			
評価			

6 年間指導計画

	指導内容	指導場面 指導者	具体的な支援	評価・記録
1 学期				
2 学期				
3 学期				

(解説付き)

年度 個別の指導計画【自立活動】

児童生徒名	年 組〔 〕	作成者	
-------	--------	-----	--

1 幼児児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

個々の障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境等の実態を的確に把握します。具体的には、基本的な生活習慣、人やものとの関わり、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、視機能、聴機能、身体機能、知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障がい理解に関すること、学習上の配慮事項や学力、特別な施設・設備や補助用具の必要性、進路、家庭や地域の環境等です。

(2) (1)の情報を、6区分で整理

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)で収集した情報を、自立活動の区分の視点で整理することで、障がい名のみに頼って特定の指導内容に偏ることなく、対象となる児童生徒の全体像を捉えることができます。					

(3) (1)の情報を、学習上又は生活上の困難の視点や、〇年後の姿の観点から整理

次に、(1)で収集した情報を、学習上又は生活上の困難の視点で整理します。その際、学習上又は生活上の難しさだけでなく、既にできていること、支援があればできること等も記載すると、指導や支援のヒントになります。最後に、幼児児童生徒の生活年齢や学校・園で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れ、「〇年後の姿」をイメージしたり、卒業・卒園までにどのような力を、どこまで育むとよいのかを想定したりして情報を整理します。

2 長期目標(年間の指導目標)

実態把握から明らかになった幼児児童生徒の「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」のうちから、その年度の指導目標の設定に必要な課題に焦点を当て、中心となる課題を選定します。
中心的な課題を踏まえ、課題を解決(改善)するための1年間の長期的な観点に立った指導目標を設定します。

3 必要な項目

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	(1) 情緒の安定に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること	(1) 保有する感覚の活用に関すること	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること	(2) 言語の受容と表出に関すること
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること	(3) 言語の形成と活用に関すること
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること		(4) 集団への参加の基礎に関すること	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	(4) 身体の移動能力に関すること	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
(5) 健康状態の維持・改善に関すること	指導目標が定まったら、それらを達成するために必要な項目を、自立活動の内容の6区分27項目から選定します。		(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

選定した項目を関連付け、具体的な指導内容を設定していきます。その際、「指導目標を達成するためには、こんな力が必要である。したがって、区分〇〇の項目〇〇と、区分△△の項目△△を関連付けて指導する。」等、前述の課題同士の関連や中心課題を設定したプロセスを振り返りながら検討することが大切です。また、指導場面や指導者を明確にし、計画的・組織的に進めましょう。

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

	1 学期	2 学期	3 学期
短期目標	1年間の長期目標を踏まえ、学期ごとの短期目標を定め、自立活動の指導の効果を高めます。その際、段階的に短期目標が達成され、それがやがて長期目標の達成につながるという展望を捉えておくことが重要です。また、その到達状況の具体的な姿を捉えておくことが重要です。		
評価	指導目標の実現に向けて、児童生徒等がどのように変容しているかを評価します。また、児童生徒等がどのような点でつまづいているかを明確にし、指導の改善につなげます。評価に当たっては、教師間の協力の下で適切な方法を活用して進めるとともに、多面的な判断ができるように、必要に応じて外部の専門家や保護者等と連携を図っていくことも大切です。実態に応じて、自己評価を取り入れ、自己理解や学習への意欲を高めましょう。		

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

6 年間指導計画

	指導内容	指導場面 指導者	具体的な支援	評価・記録
1 学期	前ページで設定した1年間の長期目標、年間の指導内容、学期ごとの短期目標を踏まえて具体的な年間の指導計画を立て、組織的・計画的な指導に役立てます。			
2 学期				
3 学期				

7
様式例初めて
担任する
先生方へ

②通常の学級用

年度 個別の指導計画【学校生活全般】

幼児児童生徒名	年 組 []	担任名	
幼児児童生徒 の実態			
本人の 願い			
保護者の 願い			
長期目標 (1年間)			

	短期目標	具体的な支援(担当者)	評価
学習面			
生活面			
行動面			
社会性・ 対人関係			
支援チーム			

(解説付き)

年度 個別の指導計画

幼児児童生徒名	年 組「 」	担任「 」
幼児児童生徒の実態	<実態把握>具体的内容(例) 基本的な生活習慣、人やものとの関わり、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、視機能、聴機能、身体機能、知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障がい理解に関すること、学習上の配慮事項や学力、特別な施設・設備や補助用具の必要性、進路、家庭や地域の環境 等	
本人の願い		
保護者の願い	<長期目標>支援の柱となるもので、1年後の姿を想定する。 ○本人・保護者のニーズが高いもの ○児童生徒等の状態像にあっている課題 ○学校生活を円滑に送るために必要なスキル ○二次的な障がいへの対応もしくは予防 等	
長期目標(1年間)		

	短期目標	具体的な支援(担当者)	評価
学習面	<短期目標>学期終了時や単元終了時の姿を想定する。 長期目標を達成するためのステップであり、今行うことにつながるもの 学習面、生活面、社会性・対人関係の中で優先順位をつけて設定 明確な評価を行うために、「条件(状況)」「行動」「基準」を記述 【例】・「条件(状況)」:ヒントが与えられた時、1対1の声かけで、 5人程度のグループ活動の時に ・「行動」:書くことができる、述べることができる、○で囲むことができる ・「基準」:80%以上、1日に1回、5回に1回、10問中8問 <具体的な支援(担当者)>支援内容を具体的に記入し、担当者も明確にしておく。 【例】(書くことへの支援) ・マス目の大きいワークシートや拡大コピーしたものや使いやすい道具等を準備し、必要に応じて選択できるようにしておく。 ・手元に板書内容の重要な箇所を書いたメモを置き、正確に板書をノート等に記録できるようにする。 <評価>達成の程度や有効だった支援、改善点等を具体的に記入する。 <支援チーム>チームを作り、多面的に実態把握や評価を行い、組織的に取り組む。		
生活面			
行動面			
社会性・対人関係			
支援チーム			

7
様式例

③特別支援学級用（当該学年・下学年の各教科等）

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名	年 組 []	作成者	
実 態		指導上の 配慮事項	

月	「単元名」 単元目標	時数	指導内容	具体的な支援	観点別評価			記録
					知識・技能	思考・判断 ・表現	主体的に学習に 取り組む態度	
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	

7 様式例

1年間の評価と来年度に向けて ○1年間の評価 ① ② ③ ○有効だった指導・支援 ・ ○来年度に向けて ・	
--	--

(解説付き)

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名	・習得状況、既習事項等 (目標・内容の一部又は全部を下学年に替えている場合は、その概要を明記) ・障がいによる学習上の困難さ、つまずきの傾向 ・当該教科等に関する興味・関心、得意なこと等	作成者	
実 態		指導上の 配慮事項	個々の実態を踏まえ、教科等の目標を達成するために必要な配慮事項を記入します。

月	「単元名」 単元目標	時数	指導内容	具体的な支援	観点別評価			記録
					知識・技能	思考・判断 ・表現	主体的に学習に 取り組む態度	
			個々の実態を踏まえ、適切に指導内容や指導方法、必要な支援を設定します。 また、基礎的・基本的な事項の習得を目指す実態の場合、指導内容を適切に精選しましょう。		3つの観点に基づき、3段階(A・B・C)で評価します。			個々の学習状況やつまずき、効果的だった指導や支援を記録し、以降の単元や他教科の指導等に生かします。
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	

1年間の評価と来年度に向けて	○1年間の評価 各単元の観点別評価を踏まえ、1年間の学習状況を評価します。 ○有効だった指導・支援 個々の実態に応じて行った指導・支援の工夫のうち、特に有効だったもの(次年度も継続するもの、教科等横断的な視点でも有効なもの等)を記載します。 ○来年度に向けて 教育課程の改善に向けた事項(指導目標の達成状況、指導内容の設定、時間数、指導形態、指導方法、教材・教具、関係機関との連携等)を記載します。
○1年間の評価	
⑤	
④	
③	
○有効だった指導・支援	
・	
○来年度に向けて	
・	

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

④知的障がい特別支援学級用（各教科等）

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名	年 組 []	作成者	
実 態		指導上の 配慮事項	

月	「単元名」 【教科別、日生、生単等】 ・単元目標 ・指導の形態	時 数	指導内容	具体的な支援	評価・記録 ㊦…知識・技能 ㊧…思考・判断・表現 ㊨…主体的に学習に取り組む態度
					(評価) ㊦ ㊧ ㊨ (記録) ・
					(評価) ㊦ ㊧ ㊨ (記録) ・
					(評価) ㊦ ㊧ ㊨ (記録) ・
					(評価) ㊦ ㊧ ㊨ (記録) ・

1 年間の評価と来年度に向けて ○1 年間の評価 ㊦ ㊧ ㊨ ○有効だった指導・支援 ・ ・ ○来年度に向けて ・ ・
--

【学習グループ名・各教科等を合わせた指導名】年間指導計画

月	「単元名」 ・単元目標 ・合わせた教科等	時 数	学習活動	指導・支援の工夫 ・有効だったこと ・改善が必要なこと 等	児童生徒の姿 ・活動への興味・関心や意欲 ・児童生徒の成長、変容 ・今後の課題 等

7
様式例

1 年間の評価と来年度に向けて ○児童生徒（成長や変容、課題等） ・ ・ ○指導（成果の大きかった単元や指導・支援の工夫、改善が必要なこと等） ・ ・ ○来年度に向けて（単元、教材・教具、指導体制、時間数等） ・ ・
--

(解説付き)

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名	・知的障がいの教科の段階 ・習得状況、既習事項等 ・障がいによる学習上の困難さ、つまずきの傾向 ・当該教科等に関する興味・関心、得意なこと等	作成者	
実 態		指導上の 配慮事項	個々の実態を踏まえ、教科等の目標を達成するために必要な配慮事項を記入します。

月	「単元名」 【教科別、日生、生単等】 ・単元目標 ・指導の形態	時 数	指導内容	具体的な支援	評価・記録 ㊦…知識・技能 ㊧…思考・判断・表現 ㊨…主体的に学習に取り組む態度 (評価)
(例) 4	(例) 「時刻と時間」 【教科別】 ・時刻の読み方や、簡単な時間の求め方を理解し、日常生活で使うことができる。	(例) 4	(例) ・午前(午後)〇時〇分と正しく時刻を読む。 ・〇分(時間)後、〇分(時間)前の時刻が分かる。 ・24時間制の時刻の読み方に慣れる。		
(例) 4 5	(例) 「修学旅行に行こう」 【生単】 ・友達と協力し、グループ行動の計画を立てることができる。 ・しおりやスケジュール表を活用し、見通しをもって活動できる。 ・旅行を振り返り、自分が体験したことや知り得た情報を伝えることができる。	(例) 4	(例) ・食事や入浴、集合時間に間に合うように、スケジュールの〇分前を計算し、〇分前行動をする。		
					㊦ ㊧ ㊨ (記録) ・

各教科等を合わせた指導についても、各教科等の目標に準拠した学習評価が必要です。

そこで、各教科等を合わせた指導で取り扱っている教科の内容についても、教科ごとの個別の指導計画に記載することで、指導の形態に関わらず、当該教科に関して児童生徒が1年間でどのような学びをするのか、全体像を捉えることができます。

また、教科別の指導と各教科等を合わせた指導との関連が図りやすくなり、カリキュラム・マネジメントにも役立ちます。

各教科等を合わせた指導における当該教科のおおよその時間数を設定します。

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

1年間の評価と来年度に向けて
○1年間の評価 ㊦ ㊧ ㊨ ○有効だった指導・支援 ・ ・ ○来年度に向けて ・ ・

【学習グループ名・各教科等を合わせた指導名】年間指導計画

月	「単元名」 ・単元目標 ・合わせた教科等	時 数	学習活動	指導・支援の工夫 ・有効だったこと ・改善が必要なこと 等	児童生徒の姿 ・活動への興味・関心や意欲 ・児童生徒の成長、変容 ・今後の課題 等
	各教科等を合わせた指導は、生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、学習や生活の流れに即して学んでいくものです。 単なる「教科等の盛り合わせ料理」ではなく、「教科等が溶け合った料理」のようなものです。 教科ごとの個別の指導計画により、各教科の目標に準拠した計画と評価を進めていく一方で、このような各教科等を合わせた指導のよさを失わないよう留意することが大切です。 そのためにも、教科ごとの個別の指導計画だけでなく、各教科等を合わせた指導の年間指導計画を作成することが望まれます。				

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

1 年間の評価と来年度に向けて ○児童生徒（成長や変容、課題等） ・ ・ ○指導（成果の大きかった単元や指導・支援の工夫、改善が必要なこと等） ・ ・ ○来年度に向けて（単元、教材・教具、指導体制、時間数等） ・ ・
--

⑤知的障がい特別支援学級用（学校生活全般）

年度 個別の指導計画【学校生活全般】

児童生徒名	年 組 []	担任名	
-------	------------------------------	-----	--

実 態 把 握	I 概念的スキルについて 1 言語発達の状況（言語理解、言語表出能力など） ・ ・ ・ 2 学習技能の状況（読字、書字、計算、推論など） ・ ・ ・
	II 社会的スキルについて 1 対人関係（友人関係など） ・ ・ ・ 2 社会的行動（社会的ルールの理解、集団行動など） ・ ・ ・
	III 実用的スキルについて 1 日常生活習慣行動（食事、排泄、衣服着脱、清潔行動など） ・ ・ ・ 2 ライフスキル（買い物、乗り物の利用、公共機関の利用など） ・ ・ ・ 3 運動機能（協調運動、運動技能、持久力など） ・ ・ ・

目標（1年間）	具体的な指導・支援 （指導場面・担当者）	評価
実態把握を踏まえ、特に学校生活全体で取り組む目標（各教科等の個別の指導計画で取り組むもの以外）を記入		

(解説付き)

年度 個別の指導計画【学校生活全般】

児童生徒名	年 組 []	担任名	
-------	--------------	-----	--

実 態 把 握	I 概念的スキルについて I 言語発達の状況(言語理解、言語表出能力など)
	個別の指導計画は自立活動をはじめ、各教科等について作成しますが、特にそれ以外に学校生活全般で取り組むべき実態や状況がある場合のみ、この様式を使用してください。
	II 社会的スキルについて I 対人関係(友人関係など) ・ ・ ・ 2 社会的行動(社会的ルールの理解、集団行動など) ・ ・ ・
III 実用的スキルについて I 日常生活習慣行動(食事、排泄、衣服着脱、清潔行動など) ・ ・ ・ 2 ライフスキル(買い物、乗り物の利用、公共機関の利用など) ・ ・ ・ 3 運動機能(協調運動、運動技能、持久力など) ・ ・ ・	

7
様式例

目標(1年間)	具体的な指導・支援 (指導場面・担当者)	評価
実態把握を踏まえ、特に学校生活全体で取り組む目標(各教科等の個別の指導計画で取り組むもの以外)を記入		

初めて
担任する
先生方へ

(3) 年間の単元(題材)配当表

参考様式(中学校知的障がい特別支援学級の例)

(年 組 氏名)

		当該 下学年(○年) 知的(段階)	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月
学校行事								
教科別の指導	国語							
	社会							
	数学							
	理科							
	音楽							
	美術							
	保健体育							
	外国語							
	職業・家庭							
	道徳科							
領域別の指導	特別活動							
	自立活動							
各教科等を 合わせた指導	日常生活の 指導 (合わせた教科)							
	生活単元 学習 (合わせた教科)							
総合的な学習の 時間								

参考様式(中学校知的障がい特別支援学級の例)

(年 組 氏名)

		当該 下学年(○年) 知的(段階)	11月	12月	1月	2月	3月	教育課程の 評価と次年度 に向けた改善
学校行事								
教科別の指導	国語							
	社会							
	数学							
	理科							
	音楽							
	美術							
	保健体育							
	外国語							
	職業・家庭							
	道徳科							
領域別の指導	特別活動							
	自立活動							
各教科等を 合わせた指導	日常生活の 指導 (合わせた教科)							
	生活単元 学習 (合わせた教科)							
総合的な学習の 時間								

参考様式(中学校知的障がい特別支援学級の記入例)

(○年○組 氏名○○ ○○)

		当該 下学年(○年) 知的(段階)	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月
学校行事			始業式 入学式	運動会		修学旅行		学校祭
教科別の指導	国語	知的 (中Ⅰ段階)	・自己紹介 ・国語辞典	・詩を読もう、詩 を作ろう	・物語を読もう	・修学旅行の思 い出を伝え合 おう	・敬語を使って 話そう	・敬語を使って 話そう
	数学	知的 (中Ⅰ段階)	・時刻と時間 ・時計を読もう	・カレンダーを使 おう	・グラフを使って 表そう	・いろいろな順 番	・時刻表を読もう	・買いものをし よう ・半額はいくら
	音楽	知的 (中Ⅰ段階)	・校歌 ・歌声合わせて	・トーンチャイム	・和太鼓「○○ 囃子」	・和太鼓「○○ 囃子」	・ボディパーカッ ション	・ボディパーカッ ション
	美術	知的 (中Ⅰ段階)	・レタリング	・鉛筆スケッチ	・陶芸をしよう	・陶芸をしよう	・オリジナルロゴ を作ろう	・オリジナルロゴ を作ろう
	保健体育	知的 (中Ⅰ段階)	・集合、整列 ・体ほぐし運動 ・新体力テスト	・リレー ・100m走 ・交流種目	・保健 ・水泳	・水泳	・バスケットボー ル	・バスケットボー ル ・性教育
領域別の指導	特別活動		・新入生を迎え る会 ・学級目標	・仲間作り ・生徒会選挙	・防災教育 ・交通安全教室 ・高校生の生活	・情報モラル ・1学期のまとめ をしよう	・生徒会選挙 ・防災教育 ・学級の成長	・高校生の生活 ・ボランティア活 動の意義
	自立活動		・バランスボード ・数と色のマッチング、左右のペアリング ・仲間分け、仲間集め ・気持ちカード、振り返り					
各教科等を 合わせた指導	日常生活の 指導 (社、職・家、保)	知的 (中Ⅰ段階)	・登下校、自立的な通学、公共交通機関のマナーと交通ルール、挨拶 ・身支度、衣服の着脱、健康管理 ・排泄(トイレ) ・清潔、手洗い ・係活動、日課・予定 ・体づくり(ランニング) ・給食、食事のマナー、歯磨き ・休憩(余暇)・掃除					
	生活単元 学習 (国、数、社、理・職・ 家、道、自、特)	知的 (中Ⅰ段階)	・新入生を歓迎 しよう	・運動会を成功 させよう	・修学旅行に行 こう	・修学旅行に行 こう	・学校祭を成功 させよう	・学校祭を成功 させよう
総合的な学習の 時間			・こんにちは、先 生(国際理解: アメリカ)	・この町大好き (地域交流:自 然)	・この町大好き (地域交流:産 業)	・この町大好き (地域交流:文 化)	・こんにちは、先 生(国際理解: アメリカ)	・この町大好き (地域交流:文 化)

7
様式例

		当該 下学年(○年) 知的(段階)	11月	12月	1月	2月	3月	教育課程の 評価と次年度に向 けた改善
学校行事			社会体験				卒業式	・教科等の時間数 ・行事等との関連
教科別の指導	国語	知的 (中Ⅰ段階)	・説明書を読もう	・年賀状を書こう	・書き初めをしよ う	・新聞を読もう	・感謝の手紙を 書こう	・教科等 同士の関 連
	数学	知的 (中Ⅰ段階)	・収入と支出	・生活の中のい ろいろな図形	・単位に気を付 けて計ろう	・予算内で買 いものをしよう	・生活の中の分 数と少数	・地域や家庭との 連携
	音楽	知的 (中Ⅰ段階)	・音の重なりを 楽しもう	・音の重なりを楽 しもう	・オリジナルソン グを創ろう	・スペシャルコン サート	・旅立ちの歌	・交流及び共同学 習
	美術	知的 (中Ⅰ段階)	・オリジナルカレ ンダー	・オリジナルカレ ンダー	・版画	・版画	・自画像を描こう	・運用上の留意点 ・効果的だったこと 等
	保健体育	知的 (中Ⅰ段階)	・マラソン大会	・器械体操	・保健 ・柔道	・ダンス	・ポッチャ ・風船バレー	
領域別の指導	特別活動		・将来の生き方 ・心と身体 成 長	・私たちの財産 ・有意義な生活	・卒業制作 ・高校生に向け て	・卒業制作 ・卒業文集	・卒業を祝う会 ・後輩へメッセー ジ	
	自立活動		・バランスボード ・数と色のマッチング、左右のペアリング ・仲間分け、仲間集め ・気持ちカード、振り返り					
各教科等を 合わせた指導	日常生活の 指導 (社、職・家、保)	知的 (中Ⅰ段階)	・登下校、自立的な通学、公共交通機関のマナーと交通ルール、挨拶 ・身支度、衣服の着脱、健康管理 ・排泄(トイレ) ・清潔、手洗い ・係活動、日課・予定 ・体づくり(ランニング) ・給食、食事のマナー、歯磨き ・休憩(余暇)・掃除					
	生活単元 学習 (国、数、社、理・職・ 家、道、自、特)	知的 (中Ⅰ段階)	・収穫祭をしよ う	・がんばったね 会をしよう	・ハッピーウィン ター	・卒業制作を贈 ろう	・おもてなしの会 を開こう	
総合的な学習の 時間			・こんにちは、先 生(国際理解: アメリカ)	・私たちの町を 紹介しよう(自 然、産業)	・私たちの町を 紹介しよう(文 化)	・交流マップを作 ろう(町、アメリ カ)	・交流マップを作 ろう(町、アメリ カ)	

初めて
担任する
先生方へ

(4) 教科書給与リスト

特別支援学級用 教科書給与リスト(小学校用)

【知的障がい特別支援学校(以下、「知的」)の各教科】

学校名		児童氏名	
学年	教科名	給与する(した)教科書名	
1	生活		
	国語		
	算数		
	音楽		
	図画工作		
	体育		
	道徳科		
2	生活		
	国語		
	算数		
	音楽		
	図画工作		
	体育		
	道徳科		
3	生活		
	国語		
	算数		
	音楽		
	図画工作		
	体育		
	道徳科		
4	生活		
	国語		
	算数		
	音楽		
	図画工作		
	体育		
	道徳科		
5	生活		
	国語		
	算数		
	音楽		
	図画工作		
	体育		
	道徳科		
6	生活		
	国語		
	算数		
	音楽		
	図画工作		
	体育		
	道徳科		

・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
 ・「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
 ・一度給与した教科書は再度給与することはできないので注意しましょう。
 ・知的の「生活」は、3年生では上限2冊まで、4年生から6年生は上限3冊まで給与できます。

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

特別支援学級用 教科書給与リスト(中学校用)

【知的の各教科】

学校名		生徒氏名
学年	教科名	給与する(した)教科書名
1	国語	・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。 ・「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。 ・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。
	社会	
	数学	
	理科	
	音楽	
	美術	
	保健体育	
	職業・家庭	
	(外国語)	
	道徳科	
2	国語	
	社会	
	数学	
	理科	
	音楽	
	美術	
	保健体育	
	職業・家庭	
	(外国語)	
	道徳科	
3	国語	
	社会	
	数学	
	理科	
	音楽	
	美術	
	保健体育	
	職業・家庭	
	(外国語)	
	道徳科	

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

特別支援学級用 教科書給与リスト(小学校用)

【当該学年の各教科／当該学年+下学年の各教科／当該学年+下学年+知的の各教科(下学年)】

学校名		児童氏名	
学年	教科・種目名	教育課程	給与する(した)教科書名
1	国語	国語	当
		書写	当
		国語	知
	算数	算数	当
		算数	知
	生活	生活	当
		生活	知
	音楽	音楽	当
		音楽	知
	図画 工作	図画工作	当
		図画工作	知
2	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	算数	算数	当・下
		算数	知
	生活	生活	当・下
		生活	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	図画 工作	図画工作	当・下
		図画工作	知
3	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	社会	当・下
		地図	当
	算数	算数	当・下
		算数	知
	理科	理科	当・下
	生活	生活	知
		生活	知
4	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	図画 工作	図画工作	当・下
		図画工作	知
	体育	体育	当
		体育	知
	道徳科	道徳科	当・下
		道徳科	知
	道徳科	道徳科	当・下
		道徳科	知

- ・教科名の列の は小学校の各教科、 は知的の各教科を表しています。
- ・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
- ・「当」は当該学年の各教科、「下」は下学年の各教科、「知」は知的の各教科を示しています。
- ・「当・下」のように○で囲む等して、履修する教育課程の教科が分かるようにします。
- ・知的の教科を履修する場合、「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
- ・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。
- ・下学年の教科に替えた場合、替えた学年で使用する教科書を給与します。この場合も、既に給与済みの場合、再び給与することはできません。

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

特別支援学級用 教科書給与リスト(小学校用)

【当該学年の各教科／当該学年+下学年の各教科／当該学年+下学年+知的の各教科(上学年)】

学校名		児童氏名	
学年	教科・種目名	教育課程	給与する(した)教科書名
4	国語	国語	当・下
		書写	当・下
	社会	国語	知
		社会	当・下
	算数	地図	当・下
		算数	当・下
	理科	算数	知
		理科	当・下
	生活	生活	知
		生活	知
	音楽	生活	知
		音楽	当・下
	図画 工作	音楽	知
		図画工作	当・下
	体育	図画工作	知
		体育	当・下
5	国語	体育	知
		道徳科	当・下
	社会	道徳科	知
		国語	当・下
	算数	書写	当・下
		国語	知
	理科	社会	当・下
		地図	当・下
	生活	算数	当・下
		算数	知
	音楽	理科	当・下
		生活	知
	図画 工作	生活	知
		音楽	当・下
	家庭	音楽	知
		図画工作	当・下
6	国語	図画工作	知
		家庭	当
	社会	体育	当・下
		体育	知
	算数	外国語	当
		道徳科	当・下
	理科	道徳科	知
		国語	当・下
	生活	書写	当・下
		国語	知
	音楽	社会	当・下
		地図	当
	図画 工作	算数	当・下
		算数	知
	家庭	理科	当・下
		生活	知

- ・教科名の列の は小学校の各教科、 は知的の各教科を表しています。
- ・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
- ・「当」は当該学年の各教科、「下」は下学年の各教科、「知」は知的の各教科を示しています。
- ・「当・下」のように○で囲む等して、履修する教育課程の教科が分かるようにします。
- ・知的の教科を履修する場合、「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
- ・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。
- ・下学年の教科に替えた場合、替えた学年で使用する教科書を給与します。この場合も、既に給与済みの場合、再び給与することはできません。

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

特別支援学級用 教科書給与リスト(中学校用)

【当該学年の各教科／当該学年+下学年の各教科／当該学年+下学年+知的の各教科】

学校名		生徒氏名	
学年	教科・種目名	教育課程	給与する(した)教科書名
1	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	地理	当・下
		歴史	当・下
		地図	当・下
		社会	知
	数学	数学	当・下
		数学	知
	理科	理科	当・下
		理科	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	美術	美術	当・下
		美術	知
	保健体育	保健体育	当・下
		保健体育	知
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当
		技術・家庭(家庭分野)	当・下
	職業・家庭	職業・家庭	知
		職業・家庭	知
2	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	地理	当・下
		歴史	当・下
		地図	当・下
		社会	知
	数学	数学	当・下
		数学	知
	理科	理科	当・下
		理科	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	美術	美術	当・下
		美術	知
	保健体育	保健体育	当・下
		保健体育	知
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当・下
		技術・家庭(家庭分野)	当・下
	職業・家庭	職業・家庭	知
		職業・家庭	知
3	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	地理	当・下
		歴史	当・下
		公民	当
		地図	当・下
	数学	数学	当・下
		数学	知
	理科	理科	当・下
		理科	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	美術	美術	当・下
		美術	知
	保健体育	保健体育	当・下
		保健体育	知
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当・下
		技術・家庭(家庭分野)	当・下
	職業・家庭	職業・家庭	知
		職業・家庭	知
4	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	地理	当・下
		歴史	当・下
		公民	当
		地図	当・下
	数学	数学	当・下
		数学	知
	理科	理科	当・下
		理科	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	美術	美術	当・下
		美術	知
	保健体育	保健体育	当・下
		保健体育	知
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当・下
		技術・家庭(家庭分野)	当・下
	職業・家庭	職業・家庭	知
		職業・家庭	知

- ・教科名の列の は中学校の各教科、 は知的の各教科を表しています。
- ・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
- ・「当」は当該学年の各教科、「下」は下学年の各教科、「知」は知的の各教科を示しています。
- ・「当・下」のように○で囲む等して、履修する教育課程の教科が分かるようにします。
- ・知的の教科を履修する場合、「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
- ・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。
- ・下学年に替える場合、中学校の下学年に替える場合と、小学校の学年に替える場合があります。
- ・下学年に替えた場合、替えた学年で使用する教科書を給与します。この場合も、既に給与済みの場合、再び給与することはできません。
- ・小学校の学年に替えた場合、「地理・歴史・公民」や「音楽・器楽」は、「社会」や「音楽」となるため、1冊の給与です。

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

8 実践ポイント集

障がいのある児童生徒等の指導に当たっては、障がい特性に応じてそれぞれ配慮が必要です。これから紹介するポイントを意識しながら、各教科等の指導や日頃の関わりに留意しましょう。児童生徒等によっては複数の障がいを併せ有している場合もあるため、主たる障がいだけでなく、併せ有する障がいへの配慮にも心がけましょう。

(1) 基本のチェックポイント13

まずは、障がいのある児童生徒等の「分かる」「できる」を支える、基本の13のポイントをチェックしましょう。(児童生徒等の実態に応じて配慮の有無や程度は変わります。)

		チェックポイント
接し方	☐	児童生徒等のよいところや強みをたくさん見つけましょう。 児童生徒等のやる気、指導・支援のヒントにつながります。
	☐	担任が、一番身近なモデルになりましょう。 児童生徒等は担任の話す言葉やふるまいを真似ることが大好きです。
	☐	「なぜ」の視点で、児童生徒等の言動の背景を探りましょう。 言動のみを評価せず、その背景(障がいの状態や発達段階、前後の事象等)に目を向けます。
指導・支援	☐	具体的な言葉で、一つずつ指示を伝えましょう。 「筆箱をもって、並んで図書室に行きましょう」 →「今から図書室に行きます」「筆箱を持ちましょう」「廊下に出席順に並びましょう」等。
	☐	具体物、写真、文字等で補い、分かりやすく情報を伝えましょう。 例) 校外学習の行先の写真を提示する。口頭指示を板書する。
	☐	1時間の授業のめあてと流れを明示しましょう。 児童生徒等に分かる言葉で、簡潔に示す配慮が必要です。
	☐	活動の終わりはどこかを具体的に伝え、見通しをもたせましょう。 例) 「〇時〇分にはこの作業を終わります」「5枚封筒を作ったら終わりです」等。
	☐	予定を提示するなど見通しをもたせ、自主性を高めましょう。 例) 月・週・1日の予定を示す。変更は口頭ではなく、板書して伝える。
	☐	スモールステップの課題を準備し、成功体験を積みませましょう。 「分かった」「できた」を実感させ、学びの確実な定着と意欲の向上を図ります。
教室環境	☐	片付けの場所や道具の置き場所を分かりやすく示しましょう。 例) ロッカーに道具の名前やイラストを貼る。
	☐	場の構造化を図り、活動を分かりやすくする工夫をしましょう。 例) 教室をいくつかのエリアに分け、学習スペース、作業スペース、休憩スペース等を設ける。
	☐	視覚的な刺激を整理し、集中しやすい環境を整えましょう。 例) 教室前面の掲示物を整理する。不要なものをカーテンで覆う。
	☐	教室内外の音が集中の妨げとならないよう配慮しましょう。 例) 複数学年で同時に学習する際の他学年への指導の声、隣の教室の音等に配慮する。

(2) 弱視特別支援学級

① 視覚障がいについて

視覚障がいとは、視力や視野などの視機能が十分でないために、全く見えなかったり、見えにくかったりする状態をいいます。

弱視特別支援学級では、拡大教科書、拡大文字教材、拡大読書器、明るさの調節等、一人一人の見え方に適した教材・教具や学習環境を整え、工夫して指導しています。自立活動では、弱視レンズの活用や視覚によって、ものを認識する力を高める指導などを行っています。



視覚障がいのある児童生徒は、こんなことに困っています。

- ・黒板や教科書の文字は小さくて見えないし、読むのに時間がかかっちゃう。
- ・近くしか見えなくて歩くのが怖いから、みんなに合わせて歩くのが大変なんだ。
- ・友達の表情が見えないから、怒っているのに気付かなくて、嫌なことをしちゃった。等

② 視覚障がいのある児童生徒との関わり方や各教科等における配慮事項



□「そこ」「あそこ」等の指示代名詞は避け、「右手前」等と具体的に伝えます。また、視覚情報なしに長い指示を覚えておくことは難しいため、指示は端的に行います。

□慣れない場所や初めての体験では、最初に周囲の状況や活動内容を説明したり、歩いて案内したりする等、環境を把握し、安心かつ見通しをもって意欲的な学習活動を展開できるようにします。

□視野が狭い場合は、横から近づくものに気付きにくいいため、衝突による事故等に十分注意します。

□明るすぎるとまぶしく感じたり見えにくかったりする場合もあることから、照明等に配慮します。

□教材等を提示する場合、言葉での説明を添えるとともに、手で触って観察できるようにする等、聴覚、触覚及び保有する視覚等を十分に活用して、言葉を正しく理解し活用できるようにします。

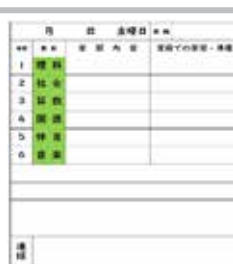
□文字カード等は、コントラストを付け、適切な文字の大きさを提示します。

□視覚障がいの状態等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項から着実に習得できるよう指導します。（※精選とは取り扱わないことではありません）

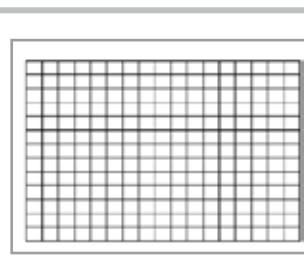
□視覚補助具やコンピュータ等の情報機器、触覚教材、拡大教材及び音声教材等各種教材の効果的な活用を通して、児童生徒が容易に情報を収集・整理し、主体的な学習ができるようにする等、児童の視覚障がいの状態等を考慮した指導方法を工夫します。



書見台と拡大読書器で見やすい環境を整えます。



連絡帳の用紙は曜日ごとに色を変えて見分けやすくします。



マス目用紙の大きさは本人と相談して決定します。

③自立活動の個別の指導計画例

Ⅰ 児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

・小学2年児童・活発で、友達と外で遊んだり、家事の手伝いをしたりする。 ・視力:0.08(矯正)・最大視認力:Max 0.6(10cm、左)・色覚:異常なし・視野:視野による問題は感じられない ・拡大教科書を使っている。時間はかかるが、弱視レンズなしでもなんと通常の教科書の本文を読むことができる。 ・文字の読み書きは得意だが、文字が小さくなると読み間違いが目立つ。どれくらいの大きさで読み間違えるかの自覚はない。 ・弱視レンズ(ルーベと単眼鏡)を1年生後半から練習し一人で使えるようになってきたが、自発的な使用はない。 ・どのような時に弱視レンズを使うかの判断が難しく、学習で弱視レンズを使用する経験が積み上がっていない。 ・花や虫の名前は知っているが実物や図鑑と一致しないものが多いことから、言葉と意味やイメージとが繋がっていないと思われる。 ・休憩時間には、友達と仲良く活動している。消極的にならずに、前向きに物事に取り組んでいる。 ・担任や母親に「読んで」と言って本を持ってくることがあるが、担任や母親以外に支援を頼むことはない。

(2) (1)の情報を、6区分で整理

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
・見えにくさを感じてはいるが、どの程度かは理解していない。弱視レンズを使う時の判断が難しく、経験が積み上がっていないため、便利さも感じていない。		・自分から友達に声をかけ、仲良く遊んだり活動したりしている。 ・身近な相手以外に支援を頼むことは無い。	・文字が小さくなると読み間違いが目立つ。 ・弱視レンズ(ルーベと単眼鏡)を一人で使えるようになったが自発的な使用はない。 ・言葉は知っていても、意味やイメージと繋がっていない。		・身近な相手以外に支援を頼む方法が分からない。

(3) (1)の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

・音読や読解などで文字が小さくなると読み間違いが目立つ。弱視レンズの使い方を覚えているが、どれくらいの文字の大きさで弱視レンズを使うか判断が難しいため、経験が積み上がらず、便利さを感じていない。 ・知っている言葉と、その言葉の意味やイメージが合致しないことがある。聞いた言葉から、正確な言葉の概念形成に至っていない。 ・活動に積極的に取り組み、友達との関係も良いが、身近な相手以外に支援を頼むことは無く、交流学級での学習で迷う場面がある。 ・本人の将来の明確な目標はまだ無いが、保護者からは一人暮らしができるようになってほしいという希望がある。見えにくさをサポートするために、自分で機器等を使ったり周囲に必要な支援を求めたりする力や、情報を収集・統合して理解したり考えたりする力が必要である。

2 年間の指導目標

・弱視レンズの便利さを感じ、一人で教科書の文章を読んだり観察をしたりできる。 ・視覚以外の感覚(聴覚、触覚)を活用して考える場面を増やす。 ・交流学級の学習で見えにくい文字があった時に、交流学級の担任に支援を求めることができる。
--

3 必要な項目

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

A読み間違いのある事例の文や教科書から、見えにくい文字のポイント数を理解する。(1(4),3(3),4(2)(3)、自立活動(担任))
B見えにくい時(教科書の文字が小さいときや観察対象が小さい時)に、ルーベや単眼鏡を使う。(1(4),3(3),4(2)(3)、自立活動、担任が担当する教科(担任))
C触った感じや形、聞こえたことなどを言葉で表現する。(4(3)(4)(5)、自立活動、担任が担当する教科(担任))
D支援の依頼の仕方を知るとともに、見えにくい文字があった時に交流学級の担任に伝える。(1(4),3(3),4(2),6(5)、自立活動、担任が担当する教科(担任)、図画工作(○先生))

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

	1学期	2学期	3学期
短期目標	- A 読み間違いのある事例の文から、見えにくいと感じる文字を見つけ、ポイント数を調べる。 - B 見えにくいポイント数の文字を含む例文を、ルーベを使って正しく読む。 - C ブラックボックスの中身を当てる活動で、触った感じや形を言葉で表現し、イメージマップを作る。 - D 学校や家庭で見えにくさから困った経験について、その時の状況や気持ち、どのように解決したかを考え、困りそうな状況を2、3パターンにまとめる。	- A 教科書から、見えにくいと感じる文字を見つけ、ポイント数を調べる。 - B 教科書の文を、ルーベを使って正しく読む。 ・学級で担任が担当する学習において、板書や対象を、単眼鏡を使って読んだり観察したりする。 - C 聞こえた音の特徴や話の内容について、言葉で説明し、イメージマップを作る。 - D 困りそうな状況の解決策や支援の求め方を考え、ロールプレイや学級での学習で実践する。また、学級で担任に支援を求める場面を作り、実際に依頼する経験を積む。	- A 学校生活で見えにくいと感じる文字等を見つけ、特徴(大きさ、色、コントラスト)を考える。 - B 交流学級で担任が担当する学習において、板書や対象を、単眼鏡を使って読んだり観察したりする。 - C 学級で担任が担当する学習において、触った感じや形、聞こえたことなどを言葉で表現する。 - D 交流学級の担任が担当する学習で、交流学級の担任に支援を求める。
評価			

① 具体的な取組例

いつ	指導内容	主な活動内容
自立活動 の時間	A・B	読書課題・フラッシュカード
	A・B	黒板の板書を単眼鏡で読む
	C	触察クイズ
	B	カードクイズ、ブラックボックス
	B・C	校庭草花地図を作ろう
	D	支援の求め方、ロールプレイ
国語	A・B	ルーペを使って漢字を読む
算数	A・B	ルーペを使って目盛りを読む
生活	B	校外での単眼鏡の使用
図工	C・D	各単元
体育	C	サーキット、縄跳び、ボール遊び

弱視の児童生徒の自立活動の内容は、技能習得を目指すものが中心になりやすいです。

しかし、技能は十分であるのに、生活場面での活用につなげられないケースが多いので、各補助具を使うことのよさを知り、実際の活動の中で使う経験が重要です。

『校庭の草花地図を作ろう』（個別の指導計画例の指導内容 B、C）

○知識・技能に関すること

【目的】補助具の正しい使い方を覚え、草花の花弁や葉の観察を通して、確実な習得につなげる。

〈知識〉 ・花弁、葉の形や色が分かる。 ・触覚での認知を高める。 ・校庭や校舎の位置関係が分かる。	〈書く・作業〉 ・はみ出さないで塗る。 ・線に沿って切る。	〈見る〉 ・ルーペ、単眼鏡、拡大読書器、書見台等の補助具を活用しながら見る。
		  
		単眼鏡・ルーペ 拡大読書器 書見台(可動式)

8
実践
ポイント集

○主体的に学習に取り組む態度に関すること

【目的】・自分に合った方法を用いると成功し、学習の理解が深まり、楽しいという気持ちにつなげる。

・補助具の便利さに気付き、様々な場面で主体的に活用してみようとする意欲を高める。

学習活動	主な支援等
1 校庭、校舎の外観を把握する。 ・校庭の白地図にカードを貼る。	・遊具等の写真をカードにして渡す。 ・単眼鏡を使うことを促す。 （位置が分かっていた場合は確認するよう促す。）
2 校庭で見つけた草花を観察し、カードを作る。 ・観察、採集、写真撮影 ・調べ活動(図鑑) ・カードづくり	・ルーペや拡大読書器を活用するよう、草花の微細部への着目場面を設定する。 ・単眼鏡を活用するよう、高い木の葉や花、実等への注目を促す。 ・図鑑で調べる前に、補助具の使い方と利点を確認する。 ・切り取り線、糊面は太い線で作る。 ・見やすいよう、色つき糊を使用する。
3 校庭の草花地図を完成する。	・窓から校庭を見て、位置の確認をしながら貼る。 ・校内に掲示するとともに、友達に発表する機会を設ける。

初めて
担任する
先生方へ

(3) 難聴特別支援学級

① 聴覚障がいについて

聴覚障がいとは、身の回りの音や話し言葉が聞こえにくかったり、ほとんど聞こえなかったりする状態をいいます。

難聴特別支援学級では、音や言葉の聞き取りや聞き分け等、聴覚の活用に重点を置いた指導や、発音・発語の指導、書き言葉の習得や抽象的な言葉の理解、自己の障がい理解を促す指導を行っています。



聴覚障がいのある児童生徒は、こんなことに困っています。

- ・持ち物の話なのは分かったけど、よく聞き取れなかったな。
- ・「〇〇」って聞いたことのある言葉だけど、何のことだろう。
- ・マスクをしていると口の形が見えないから、何を話しているか分からないな。等

② 聴覚障がいのある児童生徒との関わり方や各教科等における配慮事項



□ 児童生徒が教師の方を向いている時に、教師は自分の顔全体や口元が見えるようにして話しかけます。

□ 補聴器や人工内耳で聞き取りやすいよう、声を出して話します。唇だけを動かしたり大声を張り上げたりしません。

□ 話が通じにくい場合は、手のひらに指で文字を書いたり、空書したり、紙に書いたりして確認します。実態によっては、手話や指文字の活用に努めましょう。

□ 板書やカード、実物や写真など、視覚的な手がかりをもとに学習できるようにします。また、コンピュータ等の情報機器を有効に活用し、指導の効果を高めます。

□ 児童生徒の言語概念や読み書きの力などに応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くなど指導を工夫します。（※精選とは取り扱わないことではありません）

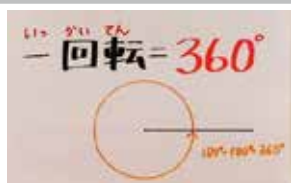
□ 体験的な活動を通して、学習の基盤となる言語概念の形成を図り、児童生徒の発達に応じた語彙の拡充と思考力の育成に努めましょう。

□ 発表や話し合いなどの学習活動を積極的に取り入れ、的確な意思の相互伝達が行われるよう指導方法を工夫します。

□ 主体的に読書に親しんだり、書いて表現したりする態度を養うよう工夫します。



教室配置を工夫したり机・椅子の脚にテニスボールを付けたりして音環境を整え、必要な音を聞き取りやすくします。



既習事項や語句を掲示し、意図的に振り返ります。また、例えば、「いちかいてん」等誤って覚える場合があるため、読み仮名をふります。

どんなことが分かりましたか。

特徴が3つありましたか、何でしたか。



聞こえていても、内容を理解できていないことがあるため、確認の際は「聞こえましたか」「分かりましたか」ではなく、具体的に質問します。

③自立活動の個別の指導計画例

Ⅰ 児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

・小学3年児童・両耳感音性難聴(中等度難聴 裸耳 右:52dB 左:58dB 補聴器装着時:25dB)・補聴援助システム(FM補聴器)使用 ・聾学校幼稚園を卒業後、小学校へ入学したため、簡単な手話やキューサインがおおよそ身に付いている。 ・補聴器の管理について、電池チェック(毎朝)と交換(残量が黄色になった時)は自主的にできる。イヤモールドの掃除や汗をかいた後の乾燥は、自主的にはできない。 ・FM補聴器は交流学級(音楽、図画工作、体育)で使用している。交流学級の担任や教科担当に、FM補聴器を依頼して渡し、お礼を言って回収することが身に付いている。 ・サ行音の発音が曖昧である。また、「ヒ」と「キ」が「シ」と「チ」に置換する。早口になると発音が不明瞭になりがちである。 ・口話でのコミュニケーションがメインだが、聞き漏らしや聞き間違いがあり、その際は、キューサインや紙に書いて知らせると理解する。本人としては、課題意識はない。 ・教科書に出てくる言葉や言い回しについて知らないものが多く、定着に時間がかかる。・友達との関係性は良くトラブルもないが、受け身がちで自分から集団に入って会話することは少ない。 ・設定された小集団(3~5人)の活動では、自分から話すこともあるが、複数の友達が同時に話すと、聞き取れずキョロキョロすることがある。 ・聾学校幼稚園の時に保育園との交流及び共同学習をしており、その時から仲の良いAさんは交流学級にいる。休憩時間はいつも一緒に体を動かして遊んでいる。 ・優しく思いやりがある反面、「分かりません」と言えなかったり、ネガティブな気持ち(困ったことや不安、悲しかったこと、怒っていること等)を表現できなったりする。 ・2月に1回、聾学校小学部の同学年の学級で交流及び共同学習をしている。(自立活動(発音・言葉)、教科)
--

(2) (1)の情報を、6区分で整理

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体動き	6コミュニケーション
・補聴器の電池チェックと電池交換は定着している。 ・イヤモールドの掃除や汗をかいた後の乾燥は、自主的にはできない。 ・聞き漏らしや聞き間違いがあるが自分では気付かず、課題意識を感じていない。 ・小集団の活動で、複数の友達と同時に話すと、聞き取れず困る様子がある。	・優しく思いやりがあり、友達との関係性も良い。 ・受け身がちで自分から集団に入ることは少ない。 ・小集団の活動では、自分から話すこともある。 ・交流学級の仲の良い友達と体を動かして遊んでいる。 ・困ったことやネガティブな気持ちを表現できない。	・友達の複数が同時に話すと、聞き取れず困る様子があるが、困っていることを言い出せないため、相手の意見や意図を理解しないまま行動する場合がある。	・補聴器を活用し、口話でのやり取りによってほぼ円滑なコミュニケーションが取れる。 ・聞き漏らしや聞き間違いがあった際は、キューサインや紙に書いて知らせると理解する。 ・教科書の言葉や言い回しを知らないことが多い。		・サ行音の発音が曖昧である。また、「ヒ」と「キ」が「シ」と「チ」に置換する。早口になると発音が不明瞭になりがちである。 ・補聴器を活用し、口話でのやり取りでほぼ円滑なコミュニケーションが取れる。 ・教科書の言葉や言い回しを知らないことが多く、定着に時間がかかる。 ・友達の複数が同時に話すと聞き取れず困る様子があるが、何と言ったらよいかわからない。

(3) (1)の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

・補聴器のイヤモールドの掃除や汗をかいた後の乾燥は、自主的にはできない。 ・サ行音の発音が曖昧である。また、「ヒ」と「キ」が「シ」と「チ」に置換する。早口になると発音が不明瞭になりがちである。 ・聞き漏らしや聞き間違いについては、自分では気付かず、教師の声かけや確認によって気付くことが多い。本人としては、課題意識を感じていない。 ・友達の複数が同時に話すと聞き取れず困る様子がある。困ったことやネガティブな気持ちを表現できず、表現の仕方もある。 ・教科書の言葉や言い回しを知らないことが多く、定着に時間がかかる。 ・現在は一人学級であるが、保護者には、中学校進学時に通常の学級に学びの場を変えたいという希望がある。交流学級の友達との良い関わりや学びを積み上げるために、まずは、自己の障がいに関する気づきや理解を促し、その上で、補聴器の管理や聞き漏らし等を防ぐ方法(確認、メモ等)、他者への依頼の仕方について習得する必要がある。また、各教科等の基礎的・基本的な事項を確実に習得するために、言葉調べ等の予習をして学習に向かう習慣を身に付ける必要がある。
--

2 年間の指導目標

・補聴器のイヤモールドに耳垢がある時の掃除や、汗をかいた後の乾燥が、自主的にできる。 ・「ヒ」と「キ」の音が語頭や文頭に含まれる言葉や文を、発音要領を意識して正しく読むことができる。 ・国語の各単元に出てくる知らない言葉や言い回しについて、調べたりまとめたりする。 ・小集団で話し合う際に、発言するときは手を挙げてから話してもらうことに依頼したり、分からなかった場合に聞き返したりすることができる。
--

3 必要な項目

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体動き	6コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代替手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体の移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

A 補聴器のイヤモールドに耳垢があることに気付く、自主的にブラシで掃除する。汗をかいた後に、自主的に補聴器を乾燥器に入れる。(1(4),4(1)、自立活動(担任)) B 「ヒ」「キ」と「シ」「チ」の発音要領の違いを意識し、単音で正しく発音する。「ヒ」「キ」が語頭や文頭に含まれる言葉や文を正しく読む。(4(3),6(2)(3)、自立活動(担任)) C 国語の各単元に出てくる知らない言葉、言い回しについて、意味や使い方、画像を調べてまとめる。(3(3),4(4)(5),6(3)、自立活動(担任)) D 手を挙げてから発言してもらうことの依頼の仕方や、分からなかった時の聞き返し方を理解し、小集団の話し合いの際に実践する。(2(2),3(2)(3),4(4),6(5)、自立活動(担任)、音楽・図画工作・体育(○先生、△先生))
--

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

	1学期	2学期	3学期
短期目標	A イヤモールドに耳垢がつまったり、湿気がたまったりするようになるのかを理解し、教師と一緒に掃除や乾燥をする。 B 「ヒ」「キ」と「シ」「チ」の単音を正しく発音する。 C 知らない言葉、言い回しについて、意味や使い方、画像を教師と一緒に調べてまとめる。 D 手を挙げてから発言してもらうことの依頼の仕方を覚え、交流学級で実践する。	A イヤモールドに耳垢があることを確認し、ブラシで掃除する。体育の後、補聴器を乾燥器に入れる。 B 「ヒ」「キ」が語頭に含まれる言葉を正しく読む。 C 知らない言葉、言い回しについて、意味や使い方、画像を教師の手助けを得ながら調べてまとめる。 D 分からなかった時の聞き返し方を覚え、拳手の依頼と併せて交流学級で実践する。	A イヤモールドに耳垢があることを自分で確認し、ブラシで掃除する。体育で汗をかいた時だけ、補聴器を乾燥器に入れる。 B 「ヒ」「キ」が文頭に含まれる文を正しく読む。 C 知らない言葉、言い回しについて、意味や使い方、画像を自分で調べ、必要に応じて担任に質問する。 D 交流学級の話し合いで、必要に応じて、拳手の依頼や聞き返しをする。
評価			

8
実践
ポイント集

初めて
担任する
先生方へ

④具体的な取組例

○「大切な補聴器（イヤモールド編）」（個別の指導計画例の指導内容 A）

【目的】自分で補聴器を管理する力を高め、補聴器を大切にしたり補聴環境を整えたりしようとする態度を育てる。

いつ	主な活動内容	主な支援等
自立活動の時間	・補聴器の部位の名前を復習する。 ・イヤモールドの役割を確認する。 ・イヤモールドに耳垢がたまっていたらどうなるか、話し合う。 ・担任と一緒にイヤモールドを掃除する。  ブラシ こより エアブローアー	・イヤモールドの役割や話し合いの内容はワークシートにまとめて教室内に掲示しておき、適宜振り返る。 ・イヤモールドに耳垢がたまっている場合の写真や掃除のポイントは、毎朝見ている補聴器チェックリストに加えておく。 ・家庭でも定期的実践するよう連携する。 補聴器チェック表（例） ☐ 電池残量はありますか。 ☐ 予備の電池はありますか。 ☐ イヤモールドはきれいですか。 ☐ チューブに水滴はないですか。 ☐ 電池ボックスにさびは付いていませんか。 ☐ 先生に音を確認してもらいましょう。
登校時	・補聴器チェック・掃除をする。	・補聴器チェックリストを確認しながら進める。 ・最初は担任と一緒にいき、徐々に一人で進め、担任に確認を求めるように移行する。

○「『ヒ』と『キ』の発音」（個別の指導計画例の指導内容 B）

【目的】自分の発音の特徴を知り、苦手な音の改善に取り組むとともに、分かりやすく伝えようとする意欲を育てる。

いつ	主な活動内容	主な支援等
自立活動の時間	・「ヒ」と「シ」、「キ」と「チ」が置換していることに気付く。 ・「ヒ」と「シ」、「キ」と「チ」の聞き分けをする。（口形のヒント無し、ヒント有） ・口形のヒント有で、何が違うかを話し合い、発音要領を確認する。 ・「ヒ」と「キ」の発音を練習する。（割り箸有、割り箸無し） ・「ヒ」⇄「シ」、「キ」⇄「チ」の違いを意識しながら発音する。	・発音明瞭度検査（※）の集計表を使って、置換に気付くようにする。 ・口形のヒント有で、口や顎がどう変化しているかを観察し、「ヒ」と「キ」では奥歯の隙間が広がることに気付くようにする。 ・最初は奥歯の隙間に割り箸を挟んで練習し、ぎゅっと噛まずに発音できてきたら、割り箸をはずして練習する。 ・「ヒ→シ→ヒ→シ」「キ→チ→キ→チ」と、最初はゆっくり、徐々にスピードを上げる。
国語	・「ヒ」や「キ」が含まれる言葉や文が出てきた時に、復習する。	・「ヒ」や「キ」に印をしておき、音読の際に意識できるようにする。

※各音の明瞭度や、発音の傾向などを分析するもの

○言葉調べ・文作り（個別の指導計画例の指導内容 C）

【目的】知らない言葉を調べたり使ったりする活動を通して、聴覚情報が入りにくいことによる学習上のつまずきを軽減するとともに、自分で調べる習慣につなげる。

いつ	主な活動内容	主な支援等
自立活動の時間	・教科書から知らない言葉や言い回しを抜き出し、国語辞典で調べる。 ・調べた言葉や言い回しを使って文づくりをする。 ・作った文と合う画像を調べたり、絵を描いたりする。	・本人が抜き出した以外にもつまずきそうなものは調べるよう促す。 ・興味・関心のある事柄や体験等をもとに文を作るようにする。 ・画像や絵を加えることで、言葉とイメージがつながるようにする。
国語	・調べた言葉や言い回しが出てきたときに、意味やイメージを想起する。	・調べたワークシートはいつでも想起できるように教室掲示したり自立活動ファイルに綴じておく。



(4) 肢体不自由特別支援学級

① 肢体不自由について

肢体不自由とは、身体の動きに関する器官が、病気やけがで損なわれ、歩行や筆記などの日常生活動作が困難な状態をいいます。

肢体不自由特別支援学級では、歩行や筆記などに必要な身体の動きの指導や移動に関する状況の判断についての指導等を行います。指導に当たっては、一人一人の障がいの状態に応じて適切な教材・教具を用いるとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用して指導の効果を高めるようにしています。



肢体不自由のある児童生徒は、こんなことに困っています。

- ・字を書いたり、教科書をめくったりすることが思ったようにできないな。
- ・足元に段差があると、乗り越えるのに時間がかかっちゃうんだよな。
- ・長時間座っていると、腰が痛くなるよ。たまに横になる時間やスペースがほしいな。等

② 肢体不自由のある児童生徒との関わり方や各教科等における配慮事項



□歩行や移動を妨げたりぶつかったりしないようにします。視線の高さや身体の動きに合わせて、掲示物やロッカーの位置を工夫するなど、教室環境を整えましょう。

□車いす等を使用する児童生徒の視線の高さに合わせて話します。

□車いすを押す場合には、ゆっくり押すように心がけます。段差や坂道がないかをよく確かめ、急な下り坂では後ろ向きに進むなど、状況に応じて安全に押します。

□児童生徒が階段や段差のあるところで困っている場合には、どうしたらよいかを尋ね、それぞれの児童生徒に合った方法で援助します。必要に応じて周囲の人たちの協力を求め、安全に介助します。

□活動に適した姿勢になってから始めるとともに、認知の特性等に応じて指導方法を工夫します。

□体験的な活動を通して言語概念等の形成を的確に図り、障がいの状態や発達の段階に応じた思考力、判断力、表現力等の育成に努めましょう。

□身体の動きや意思の表出の状態等に応じて適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器を有効に活用し、指導の効果を高めます。

□身体の動きの状態や認知の特性、各教科の習得状況を考慮して、指導内容を適切に設定し、重点を置く事項に時間を多く配当するなど計画的に指導します。



カットテーブルを使用することで、姿勢保持や上肢の操作のしやすさ、身体の変形や疲れの予防につながります。



身体を伸ばしたりストレッチをしたりするためのコーナーを設置します。車いすの座面と同じ高さにすると移乗がスムーズです。



掲示物やロッカー等の高さは、車いすで生活する児童生徒の目線や腕の高さに合わせ、自主的に活動できるようにします。

③自立活動の個別の指導計画例

Ⅰ 児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

・中学1年生 生徒・脳性まひ・WISCⅢより、言語理解と注意記憶が高く、知覚統合と処理速度がやや低い。 ・四肢の動きにくさとともに、足関節、膝関節、股関節等に拘縮がある。 ・校内の移動は電動車いすを使用し、電動車いすの操作は安全かつスムーズにできる。2階に上がる時は、手すりのある階段から支持歩行で上がり、手動の車いすで移動する。 ・学習はカットテーブルといすを使用し、車いすからいすへの移乗は自力でできる。床面から車いすへの移乗は自力でできるが、体重増加のため時間がかかりがちである。 ・トイレは多目的トイレを使用し、衣服の上げ下げについて部分介助を必要とする。自分でも少しできるが、バランスを崩しがちになる。つかまり立ちは3分程度保持できる。 ・自分で筋緊張を弛める運動等には自主的に取り組んでいるが、体重増加により車いすの移乗に時間がかかりがちであることにはあまり課題意識を感じていない。 ・学年相応の学力がある。筆記に時間がかかり、書いた字も他者に伝わりにくい。 ・表や地図から必要な情報を読み取ったり、形を構成又は展開して考えたりすることが苦手である。 ・明るい性格で、身近な教師とは会話を楽しんだり、自分の気持ちを素直に表現したりする。 ・自分でできることは自分でしようとする。困った時は担任には支援を依頼できるが、その他の教師や友達に支援を依頼する姿はほとんど見られない。 ・友達との関係は良いが、小学1年生からずっと特別支援学級に在籍し一人学級で過ごしており、特定の友達と休憩時間を過ごしたり、自分から集団に入ったりしない。
--

(2) (1) の情報を、6区分で整理

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
・自分で筋緊張を弛める運動等には、自主的に取り組んでいる。 ・体重が増加してきており車いすへの移乗に時間がかかりがちであるが、課題意識は感じていない。	・身近な教師には自分の気持ちを素直に表現する。 ・担任以外の教師や友達への依頼や、集団への参加に緊張や不安を感じがちである。	・自分でできることと介助の必要なが分かち、担任には自主的に依頼できる。 ・担任以外の教師や友達への依頼や、集団への参加に緊張や不安を感じがちである。	・筆記に時間がかかり、書いた字も他者に伝わりにくい。 ・表や地図から必要な情報を読み取ったり、形を構成又は展開して考えたりすることが苦手である。	・電動車いすで安全に移動できる。2階には手すりの階段から支持歩行で上がり、手動の車いすで移動する。 ・車いすからいすへの移乗は自力でできる。床面から車いすへの移乗は自力でできるが、体重増加により時間がかかる。 ・多目的トイレを使用し、衣服の上げ下げのみ部分介助を必要とする。 ・つかまり立ちは3分程度保持できるが、片手の支持になるとバランスを崩しやすい。	・場面や相手が変わると、依頼したり会話したりできないことが多い。

(3) (1) の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

・自分の身体の状態を自覚しており、これまで積み上げてきた活動に、自主的に取り組むことができています。 ・中学生になり身体が変化してきているが、それに対し、筋力の向上等特に取り組んでいないため、車いすへの移乗に支障が出てきている。 ・心理士になりたいという夢があり、地域の高校への進学希望がある。また、将来は一人暮らしをさせたいという保護者の希望もある。 ・地域の高校への進学となると支援が少ない中で集団生活となるため、集団への参加や周囲への介助の依頼、タブレット端末を使用したノートテイクや情報管理の力が必要である。 ・特にトイレは、ズボンの上げ下ろしに部分介助を必要とするため、腕の力だけに頼らない片手支持による姿勢保持の力を高め、一人で排泄することが望まれる。
--

2 年間の指導目標

・片手で手すりにつかまり、つかまり立ちを保持しながら、ズボンの上げ下ろしをすることができる。(支持歩行や、車いすへの移乗動作の改善につながるかと考える) ・タブレット端末のより使いやすい環境を整え、機能(記録やワードプロセッサ)を授業で活用することができる。
--

3 必要な項目

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体の移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

A 立位が安定するための下肢の筋力の向上と、目と手の協応や上下肢を強調させてズボンを動かす力の向上。(1(3),2(3),4(4),5(1)(3)、自立活動(担任)、介助担当(担任、○先生)) B タブレット端末の機能を活用した、創作活動や意思伝達の方法の拡充と、自ら環境調整に取り組む意欲の向上。(2(3),3(3),4(3),5(5),6(4)、自立活動(担任)、各教科(担任、教科担当))

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

	1 学期	2 学期	3 学期
短期目標	A ・便座の前の手すりにつかまって座り込んだり立ち上がった(10回) ・ズボンの尻に付けた洗濯ばさみを、片手は手すりにつかまり、もう片方で外す。(5個) B タブレット端末を使って創作活動に取り組み、様々な表現方法やその良さに気付く。	A ・車いすからトイレの手すりにつかまって立ち上がり、身体向きを変えて便座に座ることができる。 ・ズボンの尻や大腿部に付けた洗濯ばさみを、片手は手すりにつかまり、もう片方で外す。(5個) B タブレット機能(写真や動画、ワードプロセッサ)を使い、記録や自己評価に役立てる。	A ・いろいろな手すりを使って、立ち上がった車いすに座り込んだりする。(10回) ・ズボンの尻や大腿部に付けた洗濯ばさみを片手は手すりにつかまり、もう片方で外す。(5個、○秒) B タブレット端末を使用する際の姿勢や入力方法について、自分の意見を伝え改善しようとする。
評価			

④具体的な取組例

○「一人でトイレに行こう」(個別の指導計画例の指導内容 A、B)

【目的】排泄動作に必要な身体の動かし方が分かり、ズボンの着脱など、自分でできる日常生活に必要な基本動作が増える。

いつ	主な活動内容	主な支援等
自立活動の時間	・身体各部位のストレッチをする。 ・便座の前の手すりにつかまって座り込んだり立ち上がったりする。(10回) ・ズボンの尻に付けた洗濯ばさみを、片手は手すりにつかまり、もう片方の手で外す。(5個) ・校内の様々な形状の手すりや台でつかまり立ちを保持し、もう一方の手で上下左右に提示された教材を操作する。 ・タブレット端末で学習の様子を動画で撮影し、自己評価する。	・一人で取り組める内容や方法を本人と決め、セルフケアにつなげられるようにする。 ・回数は本人と相談して決め、スモールステップで設定する。 ・足を着いたり手すりをつかんだりする位置を確認しながら、自分なりに安定する立ち方を確立していくようにする。 ・腕の力だけでつかまり立ちしないよう、上記の学習を想起させる。 ・ズボンをつかんで下ろすことを想定した位置や洗濯ばさみの角度を本人と相談し、洗濯ばさみを付ける。 ・目と手の協応や、上肢や下肢を強調させることを意識付けながら洗濯ばさみを外すようにする。 ・スムーズにできるようになったら、洗濯ばさみを付ける位置を広げたり、制限時間を設定したりしてレベルアップを図る。 ・片手で手すりにつかまり立ちしながら、重心が移動しても姿勢保持できるように教材の提示位置を調整する。 ・自己評価するために、活動のねらいや身体の動きのポイントを想起させる。動画や自己評価はタブレット端末で保管し、自己の変容に気付くことができるようにする。

○「タブレットを使いこなそう」(個別の指導計画例の指導内容 B)

【目的】教師や作業療法士と一緒にタブレット端末の操作しやすい姿勢や方法を考え、板書の記録やノートテイクに生かし、学習中の負担を軽減する。

いつ	主な活動内容	主な支援等
自立活動の時間	・タブレット端末を使用して取り組んでみたい創作活動を考える。 ・写真や動画の撮影 ・詩や小説の作成 ・音楽やグラフィックの制作等 ・創作活動に取り組む中で、身体の負担なく操作するための姿勢やより操作しやすい入力方法について考える。	・挑戦したい創作活動を自分で選ぶことで学習への意欲を高め、楽しみながら機能の使い方や保管の方法等を学べるようにする。創作した成果物は、校内や作品展等で発表し、表現する相手や場を広げる。 ・固定台等を使い、片手でタブレット端末を操作できるようにする。 ・作業療法士(OT)や特別支援学校の協力を得ながら、姿勢や、OS 機能(フリックやピンチ等)、入力機器を改善する。その際、生徒の意見や判断を聞きながら進め、生徒が主体的に改善の検討に関わるようにする。
各教科	・タブレット端末で板書の記録やノートテイクをする。(写真、ワードプロセッサ)	・自立活動の時間における指導との関連を図る。教科での活用の仕方や目標を教科担当者と共に共有する。



(5) 病弱・身体虚弱特別支援学級

① 病弱・身体虚弱について

病弱とは、慢性疾患等のため継続して医療や生活規制を必要とする状態、身体虚弱とは、病気にかかりやすいため継続して生活規制を必要とする状態をいいます。

病弱・身体虚弱特別支援学級には、入院中の児童生徒のために病院内に設置された学級や、小・中学校内に設置された学級があります。病院内の学級では、退院後には元の学校に戻るが多いため、元の学校と連携を図りながら各教科等の学習を進めています。教科学習以外にも、身体面や心理面の健康維持や改善を図る学習を行います。



病弱・身体虚弱の児童生徒は、こんなことに困っています。

- ・入院や治療、体調不良で休むことが多いから、勉強が遅れて不安だな。
- ・病気にかかりやすいから、人ごみや身体の疲れには気を使うんだよな。
- ・運動や外出が制限されると、みんなと一緒に遊べなくてさみしいな。等

② 病弱・身体虚弱の児童生徒との関わり方や各教科等における配慮事項



□ 学校生活や学習活動に当たって、保護者、担当医、教師間で病状や活動する際の注意事項等を確認します。

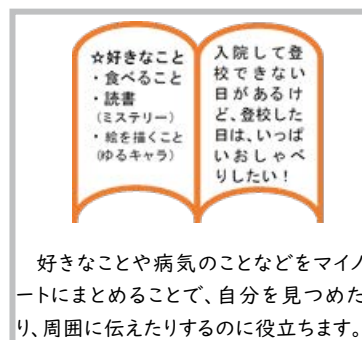
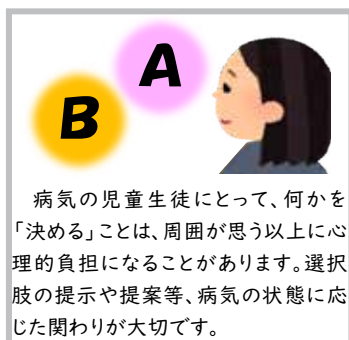
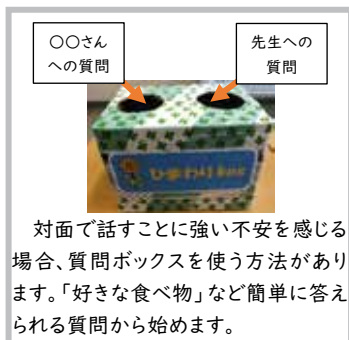
□ 病気の状態等を考慮し、活動量を調節します。(過重な負担にならないように、必要以上に制限しないように)

□ 病気や状況によっては、入院や手術、病状や治療の継続、人との関わり等に不安を抱くことがあるので、児童生徒の気持ちを尊重しつつ、活動を広げていくようにします。

□ 学習状況や病気の状態による制約等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くとともに、指導の連続性や各教科等の関連に配慮して効果的に学習できるようにします。

□ 活動制限や認知の特性、学習環境等に応じて、教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器を有効に活用し指導の効果を高めます。入院等により学校に通うことが難しい児童生徒に、同時双方向型授業配信を行う場合もあります。体験的な活動を伴う内容の指導では、間接体験や疑似体験、仮想体験等を取り入れるなど、指導方法を工夫します。

□ 健康状態の維持や管理、改善に関する指導に当たっては、自己理解を深めながら学びに向かう力を高めるために、自立活動における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにします。



③自立活動の個別の指導計画例

Ⅰ 児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

・中学2年生 ・小学校の時に、食べることが好きで、徐々に体重が増加し周りからかわれた。 ・太ることへの恐怖心が湧き、食べることを拒否しているが、食べたい気持ちがあり、状況に関係なく食べ物の話を繰り返す傾向がある。 ・心身症の一つである摂食障がい(神経性無食欲症)の診断を受け、中学校1年生の8月から入院していたが、3月に退院し、特別支援学級に在籍することになった。 ・容姿を過度に気にするため、授業中でもたびたび鏡を見る。 ・不眠が続き、小学校6年の5月ごろから不登校傾向である。・不登校傾向や入院により全体的に学習が遅れがちである(小学校5年生程度)。 ・小学校6年生から学習が遅れがちになり、登校した時には集団の動きから遅れたり、失敗を繰り返したりし、徐々に自尊感情が低下している。 ・小学校では友人も多かったが、中学校に入ると自尊感情の低下に伴い、人との直接の関わりを避けるようになった。交流学級には、小学校から仲のよい友達がいる。 ・几帳面な性格であり、担当した者は責任をもって最後まで取り組むことができるが、達成できないことがあると落ち込み、話をしなくなる。 ・入院中に手芸に興味を持ち、ハンドメイドのバッグやポーチなどを作るのが好きである。将来は服飾関係の専門学校に進学したいと言っている。 ・家族や身近な教師と、普段の出来事やテレビの話等を会話するのが好きである。

(2) (1) の情報を、6区分で整理

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
・自分の病気が正しく理解できていない。 ・必要な食事量が摂取できない。 ・不眠が続いている。	・太ることへの恐怖感がある一方、繰り返し話題にする。 ・容姿を過度に気にする。 ・達成できないことがあると落ち込んで、話をしなくなる。	・周囲の視線を過剰に意識しており、容姿だけでなく、学習が遅れていることや集団の動きについていけないことも気にしている。 ・自尊感情の低下に伴い、人との(直接の)関わりを避ける。	・学年相当の文字の読み書きが難しい。		・会話はできるが、対面して話すことを避ける。

(3) (1) の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

・太ることへの恐怖や容姿が過度に気になり、食事を摂ることができない。 ・不眠により生活リズムが乱れ学校に通うことが困難。 ・不登校傾向や入院により、学習が遅れている。(小学校5年生程度)。 ・失敗経験が自尊感情の低下につながり、人との(直接的な)関わりを避けている。 ・ハンドメイドのバッグやポーチなどを作るのが好きである。将来は服飾関係の専門学校に進学したいと言っている。 ・症状に影響する不安やストレスを自ら認知し、適切に対応することが難しい。 ・心身の日々の変化を把握し、必要に応じて周囲の人に支援を求めることが難しい。

2 年間の指導目標

・自己理解を深めることにより、食事や睡眠、体調、感情等の自己管理能力を高める。 ・好きな活動を通してコミュニケーション能力や気持ちをコントロールする力を高め、自信や自尊感情を育てる。
--

3 必要な項目

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体の移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

A 食事・睡眠の状態や体調・精神状態等を自ら記録し、心身の状態の変化を客観的に把握する。(1)(2)(5),2(3),3(3)、自立活動(担任)) B 体調に応じて、身近な教師に支援又は休養する時間と場所を求める。(1)(2),2(1)(3),3(3)、自立活動(担任)、各教科(担任、教科担当)) C ソーシャルスキルの指導やロールプレイ等とおして、学校生活で想定される課題への対応方法を考え、適切に対応する。(2(1)(3),3(4),6(5)、自立活動(担任)、交流学級の教科(本人の得意な美術)(○先生)、学活(担任))

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

	1 学期	2 学期	3 学期
短期目標	A 食事・睡眠の状態や体調・精神状態等を記録し、心身の状態の変化には様々な要因との関連があることに気付く。 B 朝の体調チェックの後、一日のスケジュールと体調を照らし合わせて参加の度合いを決める。 C 美術の時間を想定し、作品の紹介文を考えたり、発表練習や気持ちの準備をしたりし、美術の時間に実践する。	A 食事・睡眠の状態や体調・精神状態等を記録し、心身の状態の変化と様々な要因との関連を考える。 B 朝の体調チェックの後、一日のスケジュールと体調を照らし合わせて参加の度合いを決め、授業の始めに教科担当者に伝える。 C 美術の時間を想定し、友達の作品の鑑賞メモを考えたり、発表練習や気持ちの準備を練習したりし、美術の時間に実践する。	A 食事・睡眠の状態や体調・精神状態等を記録し、体調が良い時と悪い時の傾向を把握し、自己管理の方法を考えることができる。 B 参加の度合いだけでなく、遠隔機器を使って参加するなど、選択肢から参加の仕方を決め、授業の始めに教科や行事の担当者に伝える。 C 美術の時間や趣味で作った作品を集めて作品展を開き、身近な教師や友達をもてなしたり作品の説明をしたりする。
評価			

④具体的な取組例

○「体調カレンダーをつけよう」(個別の指導計画例の指導内容 A、B)

【目的】体調の変化と行動の因果関係が分かり、生活習慣を見直す等、自ら生活管理する力を高める。

いつ	主な活動内容	主な支援等																																																																																																
朝の会、 帰りの会 自立活動 の時間	- 朝の会や帰りの会では、食事や睡眠、体調、気持ち、天候、学校や家庭での出来事を記録し、短く考えたことを話し合う。 - 自立活動の時間では、体調や気持ち等の変化が、どのようなことと関連しているかを話し合う。 <体調カレンダー> <table><tr><td>体調</td><td> good 普通 いびき </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>気持ち</td><td> good 普通 いびき </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>日(月)</td><td>4月15日(月)</td><td>4月16日(火)</td><td>4月17日(水)</td><td>4月18日(木)</td><td>4月19日(金)</td><td>4月20日(土)</td><td>4月21日(日)</td></tr><tr><td>天候</td><td>晴れ</td><td>晴れ</td><td>雨</td><td>曇り</td><td>曇り</td><td>晴れ</td><td>雨</td></tr><tr><td>気温(低/高)</td><td>9℃/18℃</td><td>6℃/16℃</td><td>4℃/10℃</td><td>7℃/14℃</td><td>4℃/16℃</td><td>3℃/19℃</td><td>9℃/16℃</td></tr><tr><td>朝食</td><td>×</td><td>○</td><td>△</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>昼食</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td></tr><tr><td>夕食</td><td>○</td><td>○</td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>△</td></tr><tr><td>睡眠</td><td>○</td><td>△</td><td>△</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>△</td></tr><tr><td>学校の出来事</td><td></td><td></td><td></td><td>全校集会</td><td>美術が楽しかった。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>家庭の出来事</td><td></td><td>学校で借りた本を読 んで遅くなった。</td><td>全校集会が嫌で嫌 なかった。</td><td></td><td></td><td>ショートケーキを食 べに行った。</td><td></td></tr><tr><td>体重</td><td>37.5kg</td><td>37.6kg</td><td>37.6kg</td><td>37.2kg</td><td>37.1kg</td><td>37.6kg</td><td>38.0kg</td></tr></table> 月曜日は、体調も気持ちもイマイチなことが多いけど、〇〇すると過ごせるな。 雨の日や寒い日は、気持ちもイマイチになりやすいかも。 全校集会が不安だったけど、先生に相談して解決できてよかった。 好きなことがある日の前は、よく眠れる日が多いかも。	体調	good 普通 いびき							気持ち	good 普通 いびき							日(月)	4月15日(月)	4月16日(火)	4月17日(水)	4月18日(木)	4月19日(金)	4月20日(土)	4月21日(日)	天候	晴れ	晴れ	雨	曇り	曇り	晴れ	雨	気温(低/高)	9℃/18℃	6℃/16℃	4℃/10℃	7℃/14℃	4℃/16℃	3℃/19℃	9℃/16℃	朝食	×	○	△	×	○	○	○	昼食	○	○	○	△	○	○	×	夕食	○	○	△	○	○	×	△	睡眠	○	△	△	○	◎	○	△	学校の出来事				全校集会	美術が楽しかった。			家庭の出来事		学校で借りた本を読 んで遅くなった。	全校集会が嫌で嫌 なかった。			ショートケーキを食 べに行った。		体重	37.5kg	37.6kg	37.6kg	37.2kg	37.1kg	37.6kg	38.0kg	- 不安を感じやすい生徒の実態から、カレンダーの項目や記録の付け方等は、家庭や医療と連携して進めます。 - 単に夜更かしや朝食を抜いていることを注意するのではなく、不安の要因と一緒に考えるようにする。 - 体調が良い時や悪い時の傾向を把握し、自己理解や自己管理能力を高めていく。 良くなることだけを考えるのではなく、良い時も悪い時もあることを受け入れ、自己を調整する力を高めることが、病弱教育では大切です。 病気の状態や教育的ニーズに応じて、学びの場の再検討も行いましょう。
体調	good 普通 いびき																																																																																																	
気持ち	good 普通 いびき																																																																																																	
日(月)	4月15日(月)	4月16日(火)	4月17日(水)	4月18日(木)	4月19日(金)	4月20日(土)	4月21日(日)																																																																																											
天候	晴れ	晴れ	雨	曇り	曇り	晴れ	雨																																																																																											
気温(低/高)	9℃/18℃	6℃/16℃	4℃/10℃	7℃/14℃	4℃/16℃	3℃/19℃	9℃/16℃																																																																																											
朝食	×	○	△	×	○	○	○																																																																																											
昼食	○	○	○	△	○	○	×																																																																																											
夕食	○	○	△	○	○	×	△																																																																																											
睡眠	○	△	△	○	◎	○	△																																																																																											
学校の出来事				全校集会	美術が楽しかった。																																																																																													
家庭の出来事		学校で借りた本を読 んで遅くなった。	全校集会が嫌で嫌 なかった。			ショートケーキを食 べに行った。																																																																																												
体重	37.5kg	37.6kg	37.6kg	37.2kg	37.1kg	37.6kg	38.0kg																																																																																											

○「表現力を高めよう」(個別の指導計画例の指導内容 C)

【目的】練習したスキルを使い友達や教師をもてなしたり作品を説明したりすることで、自己肯定感を高め、人と関わる心理的不安を軽減する。

いつ	主な活動内容	主な支援等
学級活動	- 美術の時間や趣味で作った作品を集めて作品展を開くための計画や準備をする。 - 当日は、身近な教師や友達をもてなしたり作品を説明したりする。	- 特別活動としては、学級活動(2)ア「自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」の内容に関する指導。 - 担任も一緒にお客さんをもてなし、モデルとしてふるまったり、さりげなく当該生徒をフォローしたりする。
自立活動 の時間	- 作品展に向け、もてなしの言葉や作品の説明、作品に関する想定問答、相手への声のかけ方等を練習する。 - 体調カレンダー等を使って、作品展までの見通しや心身の状態を話し合ったり気持ちの準備や安定のためにできることを実践したりする。	- もてなしの言葉等は書き留めておき、困った時に想起できるようにする。 - 体調カレンダー等の取組と関連させることにより、指導の効果を高める。

(6) 知的障がい特別支援学級

① 知的障がいについて

知的障がいとは、記憶、推理、判断などの知的機能の発達に全般的な遅れがみられ、社会生活などへの適応が難しい状態をいいます。

知的障がい特別支援学級では、必要に応じて特別支援学校の教育内容等を参考にしながら、小集団の中で、個に応じた生活に役立つ内容を指導しています。小学校では、体力づくりや基本的な生活習慣の確立、日常生活に必要な言語や数量、生活技能などの指導を実施し、中学校では、それらを更に充実させるとともに、将来の社会生活や職業生活に必要な知識や技能などを指導しています。



知的障がいのある児童生徒は、こんなことに困っています。

- ・先生に言われたことをすぐに忘れちゃうの。昔のことを思い出したり、すぐく先の話を考えるのは苦手なんだよね。
- ・初めての活動はイメージが難しいな。やったことのあることは分かるんだけど。
- ・いろんなことが苦手で、時間もかかるから、新しいことはやりたくないな…。等

② 知的障がいのある児童生徒との関わり方や各教科等における配慮事項



□興味・関心に合った活動や、得意な活動、慣れた活動を取り入れ、主体的に行動し活躍できるようにします。

□個々の発達に着目し、意欲や意思、情緒の不安定さなどの課題に応じるとともに、生活年齢に即して指導します。

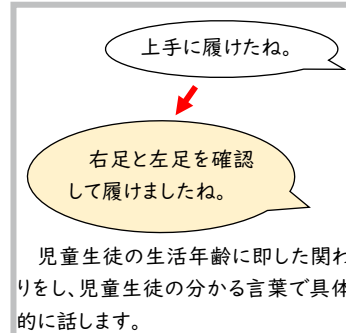
□日課や学習環境等を分かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活が送れるようにします。繰り返しの活動や、活動手順の簡略化、絵や写真等を用いた手順の提示で、見通しをもちやすくします。

□生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導するとともに、できる限り児童生徒の成功経験を豊富にします。

□興味や関心、得意な面に着目し、教材・教具、補助用具やジグ等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、学習活動への意欲が育つよう指導します。

□集団において役割が得られるよう工夫し、その活動を遂行できるようにするとともに、活動後には充実感や達成感、自己肯定感が得られるように指導します。

□児童生徒の行動の意味や背景等を必要に応じて適切に説明し、児童生徒同士が理解し合えるようにします。



③自立活動の個別の指導計画例

Ⅰ 児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

・中学2年生徒 ・穏やかな性格で、周囲に優しく接することができる。しかし、友達に劣等感を感じたり、コミュニケーションで不全感を感じたりする経験が積み重なっており、自信がなく自己肯定感も低い。そのため、自分から友だちに話かけることが苦手である。 ・好きなアニメのキャラクターの絵をかくたり、アニメの主題歌を聞いたりするのが好きである。 ・見通しがもてると最後まで集中して取り組むことができる。 ・健康状態は良好で、生活のリズムは確立している。 ・基本的な生活習慣はほぼ自立しているが、ボタンをかけたり左右のファスナーを組み合わせたりするのに時間がかかり、集合に遅れることがある。 ・動きにぎこちなさがあり、体育でダンスを覚えるのに時間がかかったり、転んだ時に思った以上にけがをしていたりする。 ・音声言語によるコミュニケーションが可能だが、語彙が少なく十分に気持ちや事柄を表現できなかったり、教師の指示を忘れてしまったりする。 ・友達より遅れて劣等感を感じたり、コミュニケーションで不全感を感じたりする経験が積み重なっており、自信がなく自己肯定感も低い。 ・保護者には、将来は一般就労してほしいという希望がある。
--

(2) (1)の情報を、6区分で整理

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
・健康状態は良好で、生活のリズムは確立している。	・友達より遅れて劣等感を感じたり、コミュニケーションで不全感を感じたりする経験が積み重なっており、自信がなく自己肯定感も低い。	・周囲に優しく接することができる。	・見通しがもてると最後まで集中して取り組める。 ・語彙が少なく、十分に表現できない。 ・言語概念に未熟さがあり、注意も続きにくいため教師の指示を忘れてしまうことがある。	・滑らかな動作が難しく、ぎこちなさや不器用さが見られる。	・音声言語によるコミュニケーションが可能だが、語彙が少なく十分に気持ちや事柄を表現できなかったり、教師の指示を忘れてしまったりする。

(3) (1)の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

・自分から周囲に働きかけ、好ましい人間関係を築くことができる。 ・ボタンをかけたり左右のファスナーを組み合わせたりするのに時間がかかるため、集合に遅れることがある。 ・体育でダンスを覚えるのに時間がかかったり、転んだ時に思った以上にけがをしていたりする。 ・自分気持ちや事柄を十分に表現できなかったり、教師の指示を忘れてしまったりする。 ・自信を持って表現したり取り組んだりすることが少ない。 ・ぎこちなさや不器用さの改善や、言語によるコミュニケーションの力を高めることが、今後の生活や将来の進路につながる。

2 年間の指導目標

・身体各部への意識や位置感覚、両手の協応動作を高める。 ・気持ちや身近な事柄に関する語彙を増やし、言葉によるやり取りの基礎を育てる。

3 必要な項目

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体の移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

A自分の身体各部の位置関係、細かい名称を知り、ゲームや体操を通して、上下、前後、左右を意識して動かす。(2(3),4(5),5(3)(5),6(3)、自立活動(担任)、体育(○先生)) B好きな絵を描くことやものづくりなどを通して、両手の協応動作を高める。(2(3),5(3)(5)、自立活動(担任)) C日記をもとに、より詳しく状況を説明したり、その時の気持ちを適切に表現したりする。(2(1)(3),4(5),6(3)、自立活動(担任))
--

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

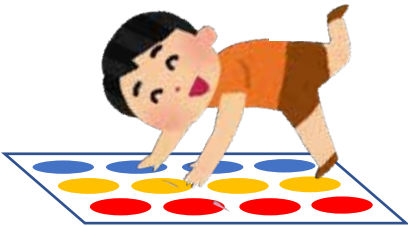
	1学期	2学期	3学期
短期目標	A 指示された身体の部位を、指示されたとおりに動かすことができる。 B 好きなキャラクターの刺し子の作品を作り、家族や身近な教師にプレゼントする。 C 気持ちを表す言葉の語彙を増やし、日記に用いることができる。	A 身体の部位や動きを言語化しながら、ヨガのポーズをとることができる。(3ポーズ) B 好きなキャラクターの刺し子の作品を作り、家族や身近な教師にプレゼントする。 C 日記に関する質問に答えながら、より詳しく状況を説明したり気持ちを表現したりする。	A 体の部位や動きを言語化しながら、太極拳の動きを模倣することができる。 B 好きなキャラクターの刺し子の作品を作り、家族や身近な教師にプレゼントする。 C 日記に関する質問に答えたり、友達の日記に質問したりして、より詳しく状況を説明したり気持ちを表現したりする。
評価			

④具体的な取組例

ア 自立活動

○「身体のすみずみまで意識しよう」(個別の指導計画例の指導内容 A)

【目的】身体の部位の名称を知り、楽しくゲームに参加する中で、自分の身体の部位やその動きへの意識を高める。

いつ	主な活動内容	主な支援等
自立活動の時間	・身体各部の名称を聞いて、その部位に触れる。 ・指示された身体部位を、指示された場所に動かす。 	・実態把握を兼ねて行い、フラッシュカードで名称を示しながら、読み上げるようにする。 ・ゲーム感覚で楽しく取り組めるようにする。 ・身体部位や動きを意識できるよう、ゆっくりと動かすように助言する。 ・実態把握を踏まえ、姿勢を変えたり保持したりする中で、両手足以外の部位も意識が高まるよう、声かけしたり部位に軽く触れたりする。 ・慣れてきたら、担任や友達、ゲストティーチャーと対戦し、楽しく取り組めるようにする。
体育	・学習の始めのラジオ体操で、身体各部を意識して動かす。	・自立活動の実態把握やゲームで見られた課題を担当者と共有し、適宜身体部位を意識させる声をかけたり手本を示したりする。

○「気持ちや出来事をくわしく表現しよう」(個別の指導計画例の指導内容 C)

【目的】気持ちに関する言葉を知り、状況や相手に応じて、気持ちを表現しようとする経験を増やす。

いつ	主な活動内容	主な支援等																									
自立活動の時間	・気持ちを表す言葉や、身近な事柄に関する言葉（日常生活や学習中の単元で使う言葉等）を知り、文を作ったり発表したりする。 (気持ちに関連する言葉の例) <table><tr><td>うれしい</td><td>楽しい</td><td>わくわくする</td><td>うきうきする</td><td>ドキドキする</td></tr><tr><td>おどろく</td><td>びっくりする</td><td>感動する</td><td>安心する</td><td>ホッとする</td></tr><tr><td>ほっこりする</td><td>まったりする</td><td>悲しい</td><td>さみしい</td><td>もうしわけない</td></tr><tr><td>残念だ</td><td>がっかりする</td><td>こまった</td><td>不安だ</td><td>たいくつだ</td></tr><tr><td>腹が立つ</td><td>イライラする</td><td>うんざりする</td><td>くやしい</td><td>うらやましい</td></tr></table>	うれしい	楽しい	わくわくする	うきうきする	ドキドキする	おどろく	びっくりする	感動する	安心する	ホッとする	ほっこりする	まったりする	悲しい	さみしい	もうしわけない	残念だ	がっかりする	こまった	不安だ	たいくつだ	腹が立つ	イライラする	うんざりする	くやしい	うらやましい	・学んだ言葉は、一覧表にして保管し、いつでも見返せるようにする。 ・文づくりは、実際の経験をもとにした内容にする。 ・自立活動の時間以外でも、意図的に学んだ言葉や表現を使うようにする。 ポジティブな言葉だけでなく、ネガティブな言葉も大切です。不安な気持ちを表現したり、相談したりする力につながります。
うれしい	楽しい	わくわくする	うきうきする	ドキドキする																							
おどろく	びっくりする	感動する	安心する	ホッとする																							
ほっこりする	まったりする	悲しい	さみしい	もうしわけない																							
残念だ	がっかりする	こまった	不安だ	たいくつだ																							
腹が立つ	イライラする	うんざりする	くやしい	うらやましい																							
国語	・日直が日記を発表し、日直以外の生徒は日記を聞いて、さらに詳しく聞きたいことを質問する。 ・日直は、より詳しく状況を説明したり気持ちを表現したりして質問に答える。	・自立活動で学んだ言葉や表現を使うよう関連を図る。 ・5W1Hを意識して質問できるよう、疑問詞を提示し意識付ける。 ・休憩時間の雑談の仕方などにも繋がるよう、発表や質問をする人だけでなく、聞き手も育てるようにする(相づちを打つ等)。																									

イ 各教科等を合わせた指導 ～日常生活の指導の例～

日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動について、知的障がいの状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえながら計画的に指導するものです。

生活科を中心として、特別活動の〔学級活動〕など広範囲に、各教科等の内容が扱われます。それらは、例えば、衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔などの基本的習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ること等の日常生活や社会生活において、習慣的に繰り返される、必要で基本的な内容です。

児童生徒の実態把握をもとに適切に指導内容を設定するとともに、毎日反復して取り組むため、児童生徒の意欲を高めることや、習慣化を経て発展的内容を取り扱うことに留意しましょう。

○指導計画の例(各教科の段階…小学部3段階)

		題材名	目 標	指導内容の例(教科等)
年 間 を 通 じ て 指 導	朝 の 活 動	係活動	・教師や友達に自分からあいさつしたり、あいさつを返したりする。 ・自分の役割が分かり、係活動に進んで取り組む。 ・決められた時間内で身支度や係活動を行う。	・あいさつ(生、道) ・連絡帳と宿題の提出(生) ・検温(体) ・献立の記入(生、国) ・日付と天気(生) ・健康観察(生、体)
		朝の会	・あいさつや礼のときに姿勢を正す。 ・友達とタイミングを合わせて声を出し、あいさつする。 ・聞きやすい声や立ち位置に気を付けて、係の発表をする。 ・日付や時間の単位に気を付けて、予定を読む。	・あいさつ(生、道) ・日付と天気(生) ・今日の給食(生、国) ・今日の予定(生、算) ・姿勢、聞き方(国、自)
	帰 り の 活 動	清掃	・掃除の手順や用具の使い方が分かって、進んで清掃に取り組む。	・用具の使い方(生) ・掃除の仕方(生) ・整理整頓(生)
		帰りの会	・下校時に忘れ物がないか確認する習慣を身に付ける。 ・1日の学習を振り返り、頑張ったことを発表する。	・持ち物の整理(生) ・がんばり発表(特) ・あいさつ(生、道)
	基 本 的 生 活 習 慣	着替え	・着替えの有無に気付き、自分から着替えに向かう。 ・自分で腕を伸ばしたり曲げたりして着替える。 ・脱いだ服を丁寧に畳み、籠に入れる。 ・ハンカチ、ティッシュの入れ替えを忘れずに行う。 ・着替えた後に、自分からまたは教師の促しを受けてシャツの裾をしまう。	・衣服の着脱(生) ・身だしなみ(生) ・衣服の畳み方(生)

		題材名	目 標	指導内容の例(教科等)
年 間 を 通 じ て 指 導	基 本 的 生 活 習 慣	持ち物 管理	・身の回りの物を決められた場所に置く。	・持ち物の整理整頓(生)
		食事	・「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする。 ・箸やスプーン、フォークを正しく使って食べる。 ・皿に手を添えたり持ったりして食べる。 ・ふきんの準備に進んで取り組む。	・食事のマナー(生) ・姿勢(生、自) ・箸の使い方(生、自) ・食器の持ち方(生、自) ・配膳、下膳(生) ・テーブルの拭き方(生)
		排せつ	・休み時間に、自分からまたは教師の促しを受けて排せつに向かう。 ・排せつ後、シャツの裾をしまう。 ・排せつ後は、自分からまたは教師の促しを受けて手を洗い、ハンカチで拭く。	・排せつの仕方(生、体) ・手洗い(生、体) ・ハンカチの使用(生、体)
		清潔	・屋外での活動後や食事前に、教師の見本を見て自分から手洗いやうがいをする。 ・汗で衣服が汚れたことに気付き、自分から汗を拭いたり、着替えたりする。 ・タイマーを使い、3分間歯磨きをする。	・手洗い、うがい(生、体) ・ハンカチの携帯、使用(生、体) ・歯磨き(生、体) ・汗の始末(生、体)
	集 団 参 加	きまり	・使った物を決められた場所に片付ける。 ・時計を見て、決められた時間を意識して行動する。 ・椅子に着席して話を聞く。	・片付け(生) ・集団でのきまり(生) ・授業と休みの区別(生)

秋田県教育委員会「特別支援学校日常生活の指導ガイド」(平成30年3月)の図表を加工して作成

ウ 各教科等を合わせた指導 ～生活単元学習の例～

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実践的・総合的に学習するものです。

指導計画を作成する際には、学習内容を相互に関連付け、総合的に学習できるように配慮することが必要です。例えば、生活単元学習において「校外学習に出かけよう」という単元を行う場合、国語科の指導において見学先へ礼状を書く活動を行ったり、算数科の指導においてバスや電車などの運賃を計算する活動を行ったりする等、児童生徒の実践的、社会的な活動に即して学習内容を関連付けながら指導を展開することで一層の効果が期待できます。

(ア) 単元のねらいと個人目標の設定

単元名 「2学期がんばったね会をしよう」

(合わせる教科等…生活、国語、算数、図画工作、自立活動、特別活動)

単元のねらい

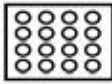
- ・2学期を通して頑張った自分たちやお世話になった先生方のために楽しい会を計画することができる。
- ・積極的に準備に関わり、責任を持って自分の役割を果たすことができる。
- ・学級の友達や先生方と仲良く活動することができる。

	Aさん(小3年)	Bさん(小5年)
8 実践 ポイント集	・友達を真似て行動することが多い。困った時に声をかけられるのを待っていることが多い。 ・思考がゆっくりであり活動にも時間がかかるが、繰り返しにより、主体的な姿や定着が見られる。役割を与えると、張り切って活動する。 ・経験したことであれば、簡単な話の内容を理解できる。気持ちを表して感想を述べることができ、他の児童の学びにつながっている。 ・発音が不明瞭で、伝わらないことがある。口が常にかいており、よだれも多い。 ・漢字や平仮名が瞬時に想起できない。語数が多くなると、何を書こうと思っていたか忘れてしまう。 ・足し算、引き算、かけ算の計算ができるが、問題からどの計算を使えばよいのか考えることが難しい。 ・不器用さがあり、道具の使い方等を確認しながら教師と一緒に調理活動をする。	・手順書や友達の様子を見て活動する。視覚的な支援があると、見通しを持って活動に取り組める。 ・集中できる時間が短く、順番を待つことが苦手である。作業的な活動は得意であり、集中して取り組む。 ・会話はパターン化しており、明確な答えがある簡単な質問には答えることができる。 ・漢字の読み書きは2年生程度で、作文は苦手である。書かれていないことを想像することは難しい。 ・計算式があれば3年生程度の計算ができるが、文章題を立式することは難しい。 ・「〇人で分ける」というイメージができ、計算できるようになった。「〇個ずつ分ける」は、まだ難しい。 ・レシピがあれば、自分で道具を準備し、手順どおりに調理活動ができる。
初めて 担任する 先生方へ	実態	

	Aさん(小3年)	Bさん(小5年)
個人目標	・昨年の振り返りカードをもとに、プログラムに盛り込みたいことやゲームを考えることができる。 ・ゲームの説明の役割を主体的に果たし、頑張ったね会を成功させようとする。 ・お客さんの教師に、自分から声をかけて招待したりもてなしたりすることができる。 ・算数の学習を生かして、クッキーを作ったり、配ったりすることができる。	・学習の流れや手順書を手がかりにして、最後まで活動に取り組むことができる。 ・話すスピードに気を付けながら、自信を持って始めのあいさつやゲームの説明をすることができる。 ・算数の学習を生かして、クッキーを配ったり、お茶を入れたりすることができる。
手立て	・昨年の振り返りカードを手がかりにして学習計画表を作り、それを確認しながら見通しをもって準備できるようにする。 ・お客さんに説明する内容を簡素化するとともに、説明やあいさつをメモ帳に書いて繰り返し練習し、自分の力で役割を果たせるようにする。 ・算数の学習との関連を意識できるよう、共通の教材・教具を用いたり学習をまとめた掲示物を確認するよう促したりする。	・学習計画表や手順書を用意し、見通しを持って準備できるようにする。 ・あいさつの内容をノートに書き、ゆっくり話すポイントを書き込んで、ノートを見ながら練習できるようにする。 ・算数の学習との関連を意識できるよう、共通の教材・教具を用いたり学習をまとめた掲示物を確認するよう促したりする。

(ウ) 活動の実際

	学習活動	Aさんの指導内容(○)と手立て(★) 教科の段階…小学部3段階	Bさんの指導内容(○)と手立て(★) 教科の段階…小学部2段階
第一次計画	計画 プログラムづくり 役割分担 2時間	○経験をもとに、プログラムやゲームを考える。(生) ★昨年の振り返りカードを手がかりにする。 ○様々な係があることを意識し、やりたい係を選ぶ。(生) ★係の内容を具体的に確認してから選ぶようにする。	○カレンダーやプログラム作りを通して、単元に見通しを持つ。(自) ★毎単元同様のカレンダーを使う。 ○係の内容を理解する。(生) ★具体的な内容を絵や短い文で示し、準備の見通しをカレンダーで示す。
第二次準備①	招待状づくり お客さんの招待 3時間	○招待状に盛り込む情報を考えて書く。(国) ★招待される人の写真を見て、盛り込む内容を考えさせる。 ○お世話になった身近な教師に、自分から声をかけて招待する。(自) ★教室を職員室に見立て、事前に練習してから向かう。	○板書をもとに、招待状を書く。(国) ★招待状のテンプレートと、板書を共通にする。 ○挨拶の仕方や招待状の向きに気を付けて、お世話になった身近な教師に招待状を渡す。(生) ★手順や接し方のポイントを視覚的に示して練習する。
	頑張ったことの作文 発表練習 2時間	○2学期に頑張ったことを順序良く書く。(国) ★アルバムを手がかりにし、順序を意識できるよう作文に書く前にワークシートを使う。 ○伝えたい言葉の子音を意識したり、身振りを付けたりして話す。(自) ★自立活動の時間と関連を図る。伝えたい言葉や身振りを付ける言葉を一緒に考え、印を付ける。	○頑張ったことをアルバムの中から選び、文に表す。(国) ★5W1Hに沿って文づくりができるようワークシートを準備する。 ○話すスピードに気を付けながら発表する。(国、自) ★話すスピードのものをさしを提示し、聞き手が分かりやすいスピードを意識できるようにする。

	学習活動	Aさんの指導内容(○)と手立て(★) 教科の段階…小学部3段階	Bさんの指導内容(○)と手立て(★) 教科の段階…小学部2段階
第三次準備②	10時間 ゲームの練習 おやつづくり お茶の入れ方 係の練習 教室飾り リハーサル 個人目標の設定	○電子黒板を操作し、歌の歌詞を表示する。(生) ★操作を簡素化し、繰り返し練習して自力で操作できるようにする。 ○道具の使い方や調理の手順に気を付けて調理する。(生) ★調理の手順を文字と写真で示し、自分で確認できるようにする。 ○クッキーをお客さんに○個ずつ配る。(算) ★半具体物を用いて、オープンの板に並んだクッキーを、紙コップに同じ数ずつ配るようにする。	○フルーツバスケットのルールを説明し、友達と一緒に遊ぶ。(生) ★読み上げるフルーツカードと、首にかけのフルーツバッチを同一にし、見て動けるようにする。 ○調理の手順を見て、自力で調理する。(生) ★調理の手順を文字と写真で示し、自分で確認できるようにする。 ○クッキーをお客さんに○個ずつ配る。(算) ★半具体物を用いて、オープンの板に並んだクッキーを、紙コップに同じ数ずつ配るようにする。
		例えば、教科別の指導で学習したかけ算、わり算と関連を図りながら、生活単元学習では、より実際的な課題の中で学習していきます。 板書 クッキーは何まい？  児童のワークシートは、マス目プリント。半具体物を操作してマス目プリントに並べながら立式し、イメージをつなげる 4まいずつ × 4れつ分 $4 \times 4 = 16$ 16まい ➡ 板書 クッキーを2まいずつ入れると何カップ？  がんばったね 会本番同様、飾り付けた紙コップに半具体物のクッキーを入れ、楽しみながら考えるようにする。 16まい ÷ 2まいずつ $16 \div 2 = 8$ 8カップ	
		○長さを測って紙を切り、クッキーカップの飾りを作り、お客さんをもてなす。(算、生) ★算数の時間と同様に 30cm ものさしを使って長さを計る。ホチキスに印をつけ、使い方を分かりやすくし、繰り返し使って練習する。	○水のかさを計り、お湯を沸かしてお茶を入れ、お客さんをもてなす。(算、生) ★算数の時間と同様にLマスを使って水を計る。手順表を用いて自分で進められるようにし、ロールプレイで繰り返し練習する。
第四次本番	2時間 本番	○これまで準備や練習してきたことを生かしてがんばったね会を進めるとともに、友達やお客さんの教師と一緒に楽しんで活動する。(特) ★リハーサル時に、困ったときの対応の仕方を確認しておき、安心して進められるようにする。	○これまで準備や練習してきたことを生かしてがんばったね会を進めるとともに、友達やお客さんの教師と一緒に楽しんで活動する。(特) ★リハーサル時に、困ったときの対応の仕方を確認しておき、安心して進められるようにする。
	1時間 振り返り	○写真を見て、個人目標に対する自己評価や他者評価をする。(特) ★評価できるよう個人目標は具体的にするとともに、お互いの頑張りを認め合えるよう良いところを見つけるように促す。	○写真を見て、個人目標に対し3段階のシールで自己評価する。(特) ★3段階のシールの評価基準を本人と確認しておく。

(7) 言語障がい特別支援学級

①言語障がいについて

言語障がいとは、発音が不明瞭であったり、話し言葉のリズムがスムーズでなかったりするため、話し言葉によるコミュニケーションが円滑に進まない状況であること、また、そのため本人が引け目を感じるなど社会生活上不都合な状態であることをいいます。

言語障がい特別支援学級では、子どもの興味・関心に即した自由な遊びや会話等を通して、教師との好ましい関係をつくり、子どもの気持ちをときほぐしながら、それぞれのペースに合わせて正しい発音や楽に話す方法を指導していきます。



言語障がいのある児童生徒は、こんなことに困っています。

- ・聞いたとおりに話しているつもりなんだけど、伝わらないな。
- ・話をするときの最初の言葉が、なかなか出ないんだよな。
- ・友達とたくさんおしゃべりしたいけど、自信がないな。等

②言語障がいのある児童生徒との関わり方や各教科等における配慮事項



□話すことが苦にならない楽しい雰囲気づくりや、温かく、思いやりのある人間関係を保つ環境づくりに心がけます。

□教師は、はっきりと、しかもゆっくりと話すように努め、子どもの話に対しては、笑顔でうなずいたり、気持ちよく返事をしたりして、子どもが話し終わるまで丁寧に聞くようにします。

□教師は、子どもにとって話したくなるような聞き手であることが大切であり、子どもの話し方ではなく話の内容に耳を傾けるようにします。また、必要に応じて文字や図、絵、動作等を活用して確認しながら聞き取るようにします。

□急いで話したり、言い直すことを求めず、また、話の途中で口を差しはさんだりしないようにします。

□話すことへの不安などで、困っていても周囲の人には伝えないことがあります。子どもが不快な感情を示したときは、共感的に「気持ちがわかるよ」「心配だよ」としっかり受け止め、不快な感情を表現するための言葉を教えるようにします。

□緊急事態等において、必要な返事がすぐに返ってこない場合、言葉だけに頼らず、筆談や空書で返事ができるようにしたり、うなずきや首ふり、身振り、カード、コミュニケーションボード等で返答できる質問をしたりするように配慮します。



担任は、一番のよき聞き手

安心して話せる関係や環境をつくり、「話し方に特徴があっているんだ」という気持ちを育てます。言語障がいの児童生徒には、心理面のサポートが大変重要です。



交流学級や学年、学校の中で、言語障がいに関する理解啓発や「話し方からかうことは許さない」という毅然とした態度の共有をします。

宿泊学習

- 班長
- 健康観察
- 朝の体操
- 食事
- 清掃
- 寝具

質問・記録で
分担したら
できそう。

この係は
できそうな
自信がある。

交流学級での係りや行事の役割は、話すことが苦手でもできるものを準備し、安心して取り組めるようにします。

③自立活動の個別の指導計画例

Ⅰ 児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

・小学4年児童 ・吃症状は、音の繰り返しとつまりが主である。
 ・吃音に対する不安や恥ずかしいという思いを強くもっており、できるだけ少ない言葉で応答しようとし、挙手や人目につく役割を極力避けようとする。このため、吃音自体は、学級や学校では目立たない。
 ・学年の始めや夏休み明け、行事の前など、環境が変化すると吃症状が強くなることもある。
 ・授業中に音読する場面では吃症状はほとんど見られず、自由会話になるとその頻度が増える。
 ・読書好きで語彙が豊富であり、学力も高い。場の雰囲気や状況を読む力も優れている。
 ・家族や担任、交流学級の限られた友人との関係は良好である。
 ・低学年は通常の学級に在籍していたが、吃音のことを知らない友達から「なんで、そんな話し方するの?」と尋ねられたり、感想等を発表するのに時間がかかり「遅いな。」と言われたりした経験が何度もある。

(2) (1)の情報を、6区分で整理

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体動き	6コミュニケーション
・吃音について家族も触れずにいたため、吃音に関する知識をもっていない。	・自分には吃症状があるという自覚があり、できるだけ少ないことばでやり取りを済ませようとする。 ・できるだけ人目につく役割を避けようとする。	・吃音のことを知っている仲の良い特定の友達とだけ一緒にいることが多く、消極的である。			・吃症状は音の繰り返しと軽いつまりが主である。音読よりも自由会話で吃症状が現れることが多い。 ・学年の始めや夏休み明け、事前など環境が変化すると吃症状が強くなる。

(3) (1)の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

・吃音が出ないように、発言や行動面で消極的に学校生活を送っており、自分を出せない不快感を抱いている。
 ・吃音が出るのではないかと不安感や恐怖感を常に抱いており、限られた友人とのみ交流している。
 ・保護者は、吃音に捕らわれず、自分に自信をもち、自分の力を発揮でき、将来は自分から周囲に働きかけるような力を身に付けてほしいと願っている。
 ・本人は多くの友達を作ったり、友人関係を深めたいという願いをもっている。

2 年間の指導目標

・自己を肯定的、多面的に捉える力を高め、自分の話したいことを自分から話し出す経験を増やす。
 ・吃音について知り、同じように言語障がいのある仲間を広げる。

3 必要な項目

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体動き	6コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

A好きな活動や自信をもっている活動を取り上げ会話する活動を通して、自己を肯定的に捉える。(2(3),3(3),6(2)、自立活動(担任)、各教科(担任))
 B「好きなこと」「得意なこと」「苦手なこと」等について話し合い、自己を多面的に捉える。(1(4),2(3),3(3),6(2)、自立活動(担任))
 C吃音について知り、吃音に伴う日常の経験や吃音の状態に応じた対応の仕方について、担任や同じ言語障がいのある友達と話し合う。(1(4),2(2)(3),3(3),6(2)(5)、自立活動(担任))

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

	1学期	2学期	3学期
短期目標	A 「好きな○○」というテーマで、担任と楽しく会話する。 B 自分や交流学級の友達の「好きなこと」「得意なこと」「苦手なこと」をまとめ、同じところや違うところに気付く。 C 絵本等を通して吃音について分かったことや調べたことなどをまとめ、言語障がい学級の友達に伝える。	A 好きなことや得意なことをテーマに、担任と養護教諭と一緒に楽しく会話する。 B 自分の「好きなこと」「得意なこと」「苦手なこと」について、理由や例などを加え、より詳しくまとめる。 C 言語障がい学級の友達との交流で、吃音に伴う日常の経験について話し合う。	A 好きなことや得意なことをテーマに、担任や養護教諭に質問したり、反対に、質問に答えたりする。 B 自分の「好きなこと」「得意なこと」「苦手なこと」について、4月と比べて変化してきたことを話し合う。 C 言語障がい学級の友達との交流で、吃音の状態に応じた対応の例を話し合い、自分の生活に生かせることを考える。
評価			

④具体的な学習活動例

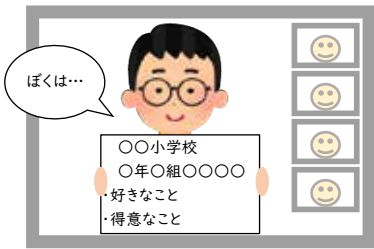
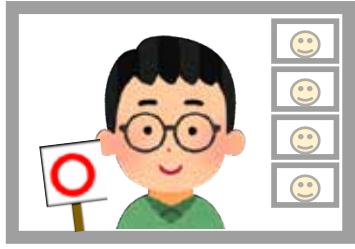
○「いろいろな自分を知ろう」（個別の指導計画例の指導内容 B）

【目的】自分の障がいについて周囲の理解を求める経験を積むとともに、自分も友達もたくさんの個性をもっていることに気づき、自己肯定感を高める。

いつ	主な活動内容	主な支援等
自立活動の時間	- 自分の「好きなこと」「得意なこと」「苦手なこと」を話し合い、カードにまとめる。 - 話すことが苦手であることについて、友達にお願いしたいことをまとめ、発表の練習をする。 「笑わずに聞いてほしい」 「最後まで聞いてほしい」	- 交流学級と合同の学級活動とし、学級づくりの活動に理解学習を兼ねるようにする。 - 発表に向けての不安を軽減するよう、学級活動の流れや内容について、事前に児童に伝えて練習する。
合同の学級活動	交流学級で、自分の「好きなこと」「得意なこと」「苦手なこと（お願いしたいことを含む）」を発表する。	担任からは、言語障がいについて短く説明し、交流学級の担任からは、他の児童へのフォローをしてもらうように打ち合わせておく。
自立活動の時間	- 自分のことを発表した気持ちや、友達の発表を聞いた感想を話す。 - 友達のカードを見ながら、自分と同じところ、似ているところ、違うところをまとめ、気付いたことを話し合う。	交流学級の友達のカードのコピーをもらう。同じ（黄）、似ている（緑）、違う（赤）など色を決め、線を引いたり囲ったりして、一つ一つを自分と比べたり、全体的な印象を考えたりできるようにする。

○「友達の輪を広げよう」（個別の指導計画例の指導内容 C）

【目的】同じ障がいのある友達と一緒に楽しく過ごす交流を重ね、経験を共有できる仲間づくりをする。

いつ	主な活動内容	主な支援等
合同の自立活動	（1回目）テレビ会議のアプリを使って、県内の言語障がい特別支援学級の友達と、自己紹介やクイズをする。  （4回目）実際に学校に集まって、交流会を行う。学校探検やジェスチャーゲーム等で楽しく触れ合った後、言語障がいに伴う日常の経験について話し合う。	- 通信がスムーズにできるよう、事前に交流校の担任同士で練習しておく。 - 共通の項目で自己紹介するようにする。 - 話すことに負担がかからないよう、自己紹介はフリップに書いたり、「○」「×」で答えられるクイズにしたりする。  3回目までは遠隔システムでの交流及び共同学習だったため、一緒に身体を動かしたり触れ合ったりするゲームを最初に行う。 - 自分の障がいに関する話し合いは、事前学習を十分に行い、実態に応じて内容を検討する。
学級の自立活動	交流を振り返り、自分の経験を紹介した気持ちや、友達の経験から感じたこと（共通点・新たな発見）をまとめる。	話し方や表現方法は多様であり、それぞれが良いと感じられるよう、前向きな考えを引き出す。

(8) 自閉症・情緒障がい特別支援学級

① 自閉症・情緒障がいについて

情緒障がいとは、情緒の現れ方が偏っていたり激しかったりする状態を、自分の意志ではコントロールできないことが継続し、学校生活や社会生活に支障となる状態をいいます。

情緒障がい教育では、発達障がいである自閉症などと、心因性の選択性かん黙などのある児童生徒を対象としています。

自閉症・情緒障がい特別支援学級では、自閉症などの児童生徒については、言語の理解と使用や、場に応じた適切な行動などができるようにするための指導が行っています。主として心理的な要因による選択性かん黙などのある児童生徒については、安心できる雰囲気の中で情緒の安定のための指導が行っています。



自閉症・情緒障がいのある児童生徒は、こんなことに困っています。

(自閉症)・いつまで、この活動をするのかな。終わったら遊んでいいかな。

・〇〇君に肩をたたかれた。これはいじめだ!でも誰も分かってくれない。

(情緒障がい)・家では話せるんだけど、学校だと声が出なくなっちゃうんだよね。等

② 自閉症・情緒障がいの児童生徒との関わり方や各教科等における配慮事項



<自閉症>

□見通しがもてるよう、活動内容を簡潔な言葉やVTR、写真等の視覚的な情報で事前に知らせます。急激な変化を苦手とする場合が多いため、活動を急に変更しないようにします。実態に応じて、予定は変更する可能性があることを知らせます。

□相手の感情や考えを理解することが苦手な場合が多いため、友達関係を把握し、相手の感情や考えを適宜説明する等、誤解によるトラブルを防ぎます。また、言動の意味の理解が困難な場合も、他者に自らの意思や考えを伝えようとしていることに留意します。

□集団への参加が苦手な児童生徒が多いため、少人数から徐々に人数を増やしたり、児童生徒同士の相性を考慮したりする等の工夫をします。

□聴覚や視覚、触覚等に強い過敏性が見られることから、騒がしい場所や蛍光灯の光、人との接触等を極端に苦手とする場合があることに留意します。

<情緒障がい>

□選択性かん黙の児童生徒に対しては、場面によって意図的に話ができない状況にあることを踏まえ、緊張や不安を緩和できるような支援の手立てを工夫します。

□心理面での不安定さから学習の積み上げが難しかったり、治療等により学習の空白期間が生じたりする場合もあることを踏まえ、学習内容の定着に配慮します。

□児童生徒の情緒不安、自尊感情や低下などの状態に応じて、カウンセリング的対応や医師の診断を踏まえた対応等を行います。



スケジュールやタイムタイマーを使い、見通しをもてないことによる不安を軽減します。

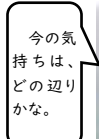


ヘッドホン(聴覚)



蛍光灯をビニールや和紙でカバー(視覚)

感覚の過敏がある場合は、刺激を和らげるグッズを使い、安心して過ごすことができるようにします。



今の気持ちは、どの辺りかな。

頑張りすぎ、ちよーどよい、休憩が必要等、目安となる目盛りを付けることで、情緒の安定を図るのに役立ちます。

気持ちの温度計を使って、情緒の状態を客観的に把握したり、その際の対応について相談して決めたりして、自分で気持ちをコントロールできるようにします。

③自立活動の個別の指導計画例

Ⅰ 児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

・小学5年児童 ・高機能自閉症、知的発達に遅れはない。 ・教科学習の内容はおおむね定着しているが、場面から登場人物の心情を推察することは苦手としている。4年生で「ごんぎつね」の学習をした時には、「ごんぎつねは悪いことばかりをしていたので、兵十に退治された」と主張した。 ・忘れ物はほとんどなく、宿題は丁寧に仕上げてくる。・とめはねはらいを強調した独特の字を書く。 ・係活動では、進行表があれば、司会を上手に務めることができた。その後、次第に進行表がなくてもできるようになった。 ・最近になってエプロンの紐を後ろで結ぶことや、髪を一人で洗ったり後ろで束ねたりすることが、家庭でできるようになった。 ・急に寒くなくても薄着のまま登校するなど、暑さや寒さなどの感覚が他の児童と違うと感じる場面がある。 ・友達に「その服、似合っていないね」と言って泣かせたことがあった。その場で謝ったが、相手を傷つけたと理解できず、「本当のことを言っただけ」と日記に書いていた。 ・低学年の頃は休み時間等にクラスメイトと遊ぶ場面が見られたが、最近では一人で図書室に行って好きな本を読んでいることが増えてきた。 ・「仲間外れにされている」との訴えがあり聞くと、本児の興味のあることが友達の興味と異なり、あまり話を聞いてもらえなかったことや、友達の話す流行の内容が分からないことが要因だった。
--

(2) (1) の情報を、6区分で整理

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
・寒暖に合わせて服装を調節することはできない。	・友達とうまく関わっていないことを自覚していて、不安が強くなってきている。	・相手の表情や態度から総合的に判断するのではなく、言葉や文字情報に依存して判断する傾向がある。	・視覚面では全体より部分を細かく捉える傾向がある。 ・気温の変化を感じ取ることは苦手である。	・指先の巧緻性が徐々に身に付いてきている。	・これから思春期に向かうが、その年齢に応じたコミュニケーション能力はまだ身に付いていない。

(3) (1) の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

・学習上の困難は主として心理解が困難であることに起因しており、教科学習全般には意欲的でありよく理解している。 ・普段の人間関係において、相手の心理解が不十分なことによる困難が増しつつある。状況に応じて周囲の人の気持ちを推測することができないことや、興味・関心が同年代の子供と異なるために、すれ違いが大きくなってきている。 ・低学年の時に仲の良かった友達とも距離ができたことを感じていて、今後ますます一人になりそうなことを心配している。 ・母親も仲の良い友達がいなくて、心配している。今後、思春期を迎えるにあたり、対人関係が大きな課題となることに不安を感じている。 ・人間関係が複雑になる中学、高等学校生活の前に、苦手なことや不安なことを相談する力を育てていく必要がある。

2 年間の指導目標

・誘う、断る、励ます、説明する、質問するなど、人と関わるために必要なコミュニケーションの仕方を知り、相手の心情を考えて使用する。 ・手先の巧緻性を高め、髪の毛や衣服の紐や留め具を一人で整えることができる。

3 必要な項目

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

8
実践
ポイント集

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

A事例をもとに、状況や自分と相手の気持ちを整理したり、解決方法等を話し合ったりして、コミュニケーションのスキルを高める。(2(1)(2),3(2),6(5)、自立活動(担任)) B思いや願いを引き出しながら、季節や年齢に見合った身だしなみや制作(裁縫など)など、手先の巧緻性を高める課題に取り組む。(2(1),5(3)、自立活動(○先生))

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

	1学期	2学期	3学期
短期目標	A・一週間の出来事について、状況や気持ちを教師と一緒に整理しながら言語化する。 ・仮想の事例をもとにした話し合いて、状況や主人公の気持ちを自分なりに考える。 B・季節や年齢に見合った身だしなみについて、アプリを使って調べ、実践する。(通年) ・好きな布を使ってティッシュケースを制作し、自分の身だしなみに生かす。	A・一週間の出来事について、状況や気持ちを簡単な絵を書いて整理しながら言語化する。 ・仮想の事例をもとにした話し合いて、状況や主人公と相手の気持ちを自分なりに考える。 B・季節や年齢に見合った身だしなみについて、アプリを使って調べ、実践する。(通年) ・好きな布を使ってハンカチを制作し、自分の身だしなみに生かす。	A・一週間の出来事について、状況や自分と周囲の気持ちを簡単な絵を書いて整理しながら言語化する。 ・仮想の事例をもとにした話し合いて、状況や主人公と相手の気持ちについて、友達の意見を受けて、解決方法を考える。 B・季節や年齢に見合った身だしなみについて、アプリを使って調べ、実践する。(通年) ・好きな布を使ってポーチを制作し、自分の身だしなみに生かす。
評価			

初めて
担任する
先生方へ

④具体的な取組例

○「一週間の出来事を振り返ろう」(個別の指導計画例の指導内容 A)

【目的】状況の理解を促し、その状況における自分や相手の気持ちに気づき、言語化できるようにするとともに、自己認知を高め、行動や感情のコントロールにつなげる。

いつ	主な活動内容	主な支援等
自立活動の時間	・一週間の出来事について、特に心に残っているものを決める。 ・その時の状況や気持ちを簡単な絵を書いて整理する。 ・吹き出しを用いて、自分や周囲の気持ちを言語化し、加えていく。 ・整理したことや吹き出しを踏まえ、出来事について要点をまとめて話す。	・これまでの事例から、児童が人間関係に不安を感じ始めていることを共有し、本人にとって学習の必要性や意義感じられるようにする。 ・始めは教師が絵や吹き出しを書きながら一緒に行い、少しずつ自分で書けるように移行していく。 ・毎回同じ流れで取り組むことで、楽しかった出来事を伝えたり、困った時に相談したりできるようにしていく。

嬉しかった出来事の例。(オレンジ部分は教師と考えた内容)

○月○日(○)昼休憩

そのハンカチかわいいね。 Aちゃん

ありがとう。 私

シーン……

他に何て言ったらいいのかな、困った……

例:嬉しいな。

例:実は自分で作ったんだよ。

例:Aちゃんのハンカチもきれいな色だね。

友達とのトラブルの例。(オレンジ部分は教師と考えた内容)

○月○日(土)2時

Aちゃんが1時に家に遊びに来るって言ったのに、来ない。

約束をやぶった!怒った! 私

(電話)約束を忘れてた!本当にごめん! 3時 Aちゃん

許してくれるかな。また一緒に遊びたいな。

(電話)約束をやぶった!もう遊ばない! 嫌われた……。ショック……

例:なんで忘れちゃったの?

例:ずっと待っていて心配したよ。(今回は忘れていたが、発熱、急用の可能性もある)

例:(15分後に電話)待っているけど、何かあった?

○「身だしなみを整えよう」(個別の指導計画例の指導内容 A)

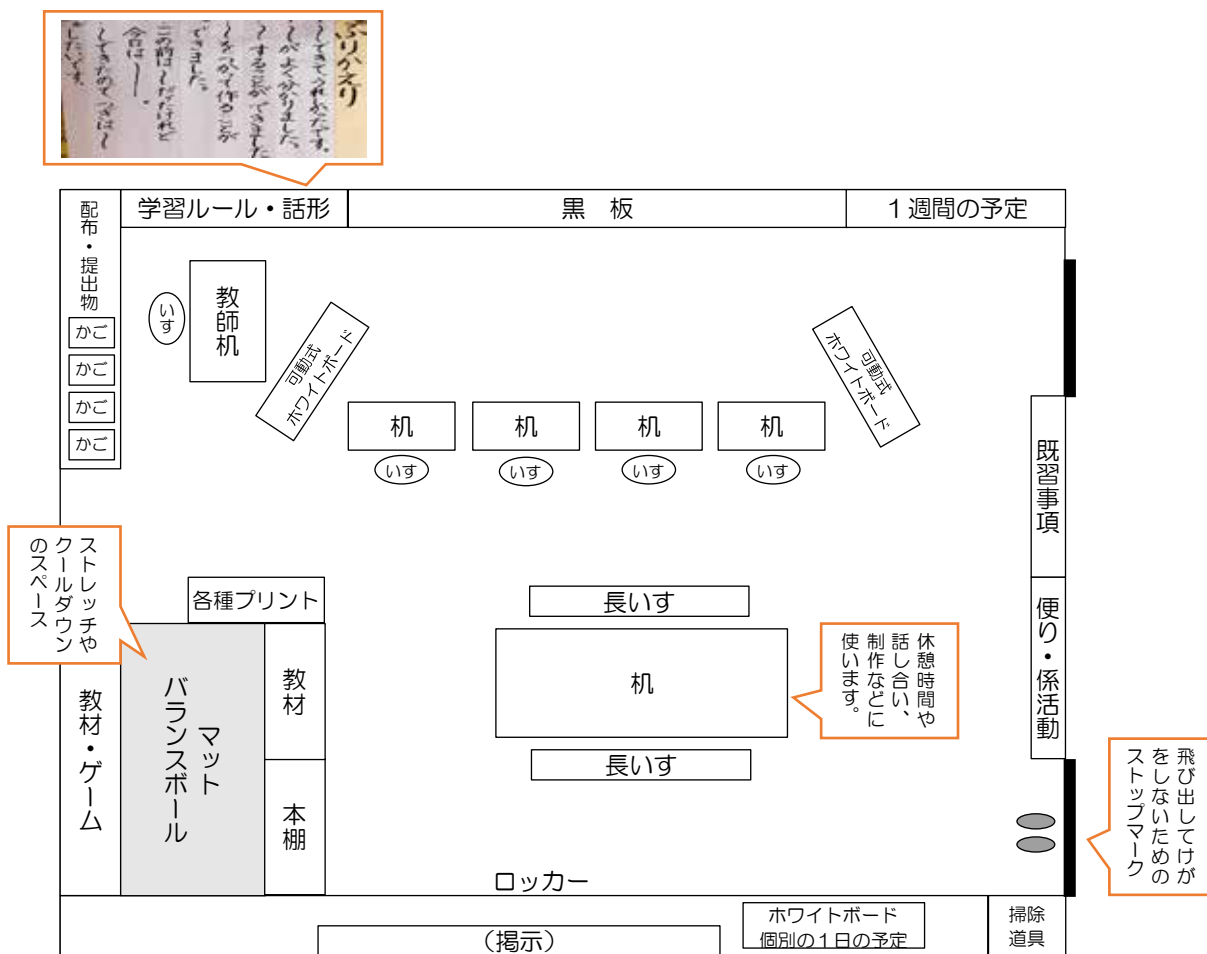
【目的】季節や気温、状況に応じた服装や身だしなみの意味を知り、納得した上でスキルを獲得するとともに、相手との関係性に影響があるという社会性の学びにつなげる。

いつ	主な活動内容	主な支援等
自立活動の時間	・服装を整えることの意味を考える。 →季節に応じた体調管理につながる。 目的の活動がしやすくなる。 清潔感などの印象を周囲に与える。 ・清潔感の乏しい身なりのイラストを提示し、印象や改善点を話し合う。 ・自分の服装や身だしなみについて振り返り、良い点や改善点を考える。 ・身だしなみチェックポイントを作る。	・形のみを伝えるのではなく、服装や身だしなみを整えることにどのような意義があるのかを踏まえて学習を進める。 ・改善点だけでなく、良いところを見つけていくようにする。 ・教師主導でなく、生徒が作成することで主体性を高める。
朝の会	・アプリを使って、今日の天候に合う服装のアドバイスを確認する。 ・ペアになり、アプリやチェックポイントをもとに、お互いの服装や身だしなみの良い点と改善点を1つずつ伝える。	・アプリを使うことで、興味・関心を高め、一人でも活用できるようにする。



⑤教室環境例

個々の児童生徒が主体的に活動できるように、教室環境を整えることが大切です。



(9) 複数学年の児童生徒が在籍する特別支援学級における工夫

児童生徒一人一人の実態に応じた指導を充実させるためには、時間割や指導形態、学習形態、教材・教具等、様々な工夫が必要です。

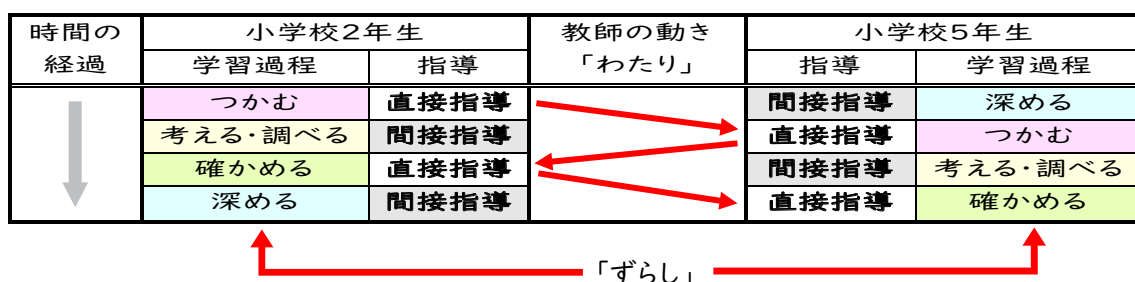
例えば、従前から複式学級の指導として行われてきた「わたり」と「ずらし」の指導を特別支援学級における指導に生かし、直接指導と間接指導を効果的に行う方法があります。

「わたり」…同一時間に複数学年を対象として学習指導する場合に、教師が一方の学年から他方の学年に移動する動きのこと。

「ずらし」…「わたり」を効果的に行うために、指導段階を学年別にずらして組み合わせること。

「直接指導」…間接指導に対し、児童が直接教師と対面して学習活動を進める指導形態。

「間接指導」…直接指導に対し、直接指導ができない学年に対して行う指導形態。



奈良県教育委員会「複式学級における学習指導改訂版Ⅱ」（平成27年3月）の図表を加工して作成

<支援員と連携した「わたり」と「ずらし」の例>

8
実践
ポイント集

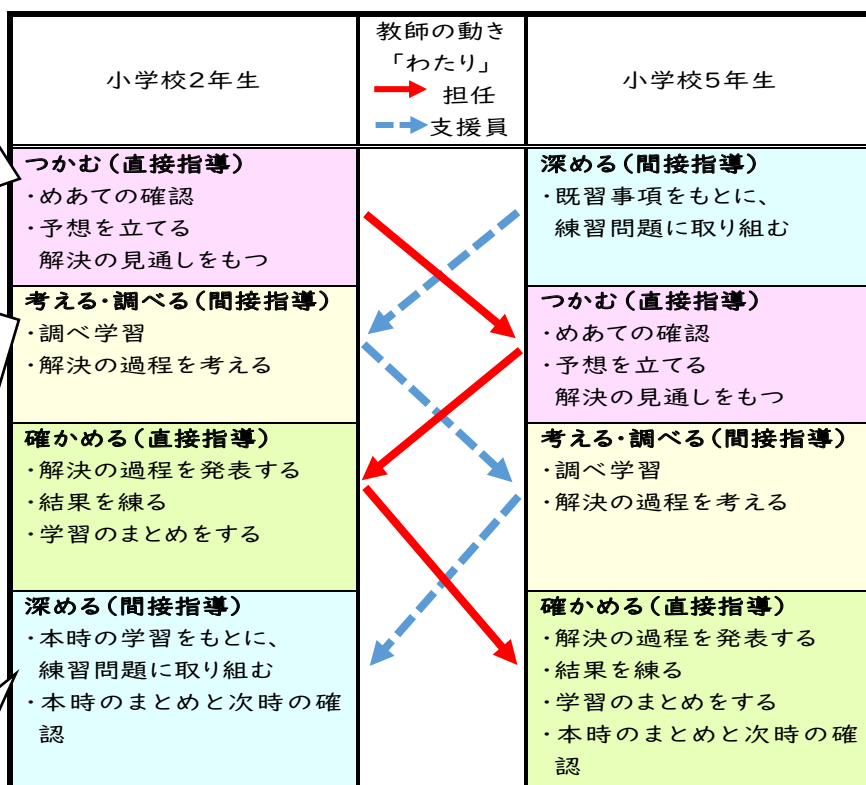
初めて
担任する
先生方へ

課題の把握と解決への見通しをもたせ、「考える・調べる」活動につなげます。教師が「わたる」前に、児童生徒が、間接指導の間に何をやるのかを明確に分かっていることが大切です。

解決の過程を記録するワークシートを使用する等、自主的に学習を進める方法や態度を身に付けるように工夫します。

一方の学年に複数の児童生徒がいる場合、間接指導で学習の手引き等を使い、ガイド役の児童生徒が他の児童生徒をリードして、相互に協力し合い課題を進める方法もあります。

間接指導後の直接指導では、解決の過程や状況を確認し、個々のつまずきに対応した上で学習をまとめます。



奈良県教育委員会「複式学級における学習指導改訂版Ⅱ」（平成27年3月）の図表を加工して作成

<担任>直接指導のポイント

- ・学習への意欲を高め、主体的な学びにつなげる。
(実物の提示、興味・関心の高い教材、既習事項との関連、日常生活との関連等)
- ・学習の見通しがもてるようにする。
(手順や方法、活動量、終わったらどうするか等の提示、学習の手引き等の提示)
- ・指導内容の精選や重点化を図るとともに、発表や話し合い等によって考えを確かなものにする。

<支援員>間接指導のポイント

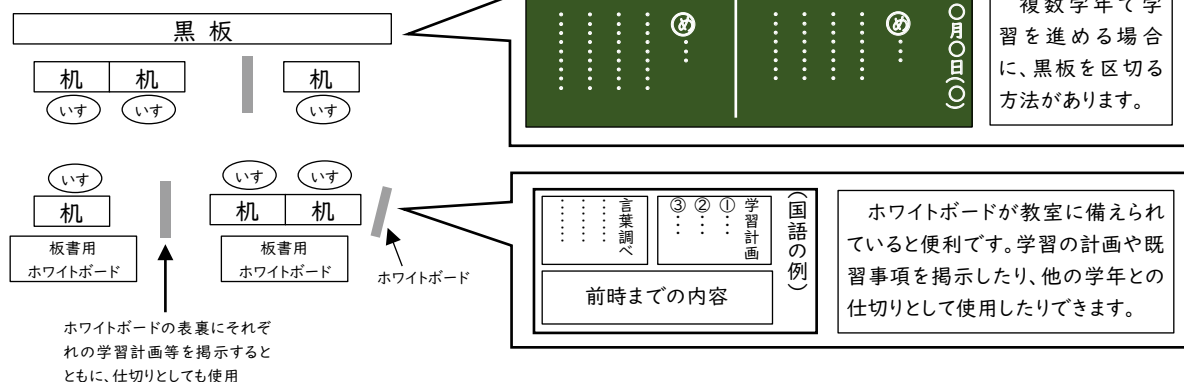
- ・自主的に学習を進められる手立てを用意する。
(教具、辞書、ヒントカード、発表ボード、発展的な問題等)
- ・学習の進め方やつまづき等を把握し必要な支援を行うとともに、次の直接指導に引き継ぐ。

<算数の例>

学習過程	誰と	活 動
つかむ	担任と	① 問題を読み、めあてを確認する。 ② 分かっていることに線を引く。 ③ 求めることに波線を引く。 ④ 求める方法に予測を付ける。
考える 調べる	支援員と	① 操作活動を行ったり図や絵に描いたりして考え、式に表す。 ② 考え方等を言葉で説明する。 ③ 発表ボードに式と答え、説明を書く。
確かめる	担任と	① 発表ボードで考えを発表する。 ② 発表内容をもとに、めあてに立ち返って話し合う。 ③ 分かったことをノートにまとめる。
深める	支援員と	① 教科書の練習問題を解く。 ② ドリルの問題を解く(○付けもする)。 ③ 振り返りを書き、発表する。

<教室環境の工夫>

座席の配置(例:国語)



(10) 通常の学級(LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥多動性障がい))

①LD、ADHDについて

LDとは、知的発達の遅れは見られないが、特定の能力に著しい困難を示すものです。また、ADHDとは、発達段階に不釣り合いな注意力や衝動性、多動性を特徴とする行動の障がいです。両者ともに脳などの中枢神経系に何らかの機能障がいがあると推定され、発達障がいに分類されます。

LD、ADHDについては、通常の学級の中で十分な配慮を行った上で、必要であれば、通級による指導を行うことができるようになっています。



LD、ADHDの児童生徒は、こんなことに困っています。

- ・板書写すのが、間に合わないよ。
- ・また忘れ物をして、おこられちゃった。
- ・先生の話が長いと集中できないよ。どんな話だったか分からなかったな。等

②LD、ADHDの児童生徒との関わり方や各教科等における配慮事項

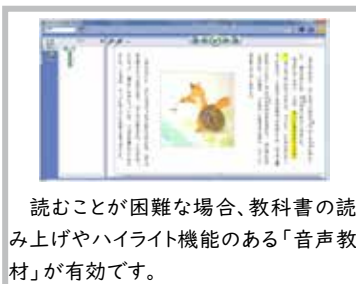


<LD>

- 児童生徒の得意な活動や障がいにより苦手な活動を十分に把握します。
- 得意な能力を生かした活動ができるように工夫します。苦手な活動に対しては、周囲の理解を図るとともに、できる限り自分の力でできるような支援の手立てを工夫します。
- 具体的に簡潔な言葉で話すとともに、実物やVTR、写真、絵カード等の視覚的な情報を活用します。
- 文字を示す時には、読みやすい大きな文字や色を使うようにします。不必要な文字は黒板から消すなどして、必要な情報を厳選して提示します。

<ADHD>

- 聞き落としや見落としをしないように、教師に注目していることを確認してから話したり見せたりします。また、一度に多くのことを伝えようとしないで、一つのことを簡潔に伝えるようにします。
- 一つ一つの活動が短く区切られ、先の活動が終わった時には次にやることが明確に分かっているようにします。
- 忘れても思い出せるように、指示内容は簡潔に書いて提示します。少しずつ、児童生徒が自分でメモを取るようになっていきます。
- 好ましくない行動をした時には、その行動がよくないことを短く簡潔に伝え、どのように行動することがよいのかを具体的に伝えます。
- 興味の対象が移りやすいので、活動に不要なものは片付けておくように努めます。



読むことが困難な場合、教科書の読み上げやハイライト機能のある「音声教材」が有効です。



カレンダーのポケットにメモを入れ、大事な予定などを思い出せるようにします。



卓上パーティションで、見えるものを軽減し、集中を高めることができます。

独立行政法人特別支援教育総合研究所ホームページ「特別支援教育教材ポータルサイト」

(11) 通常の学級における「分かる」「できる」指導の工夫

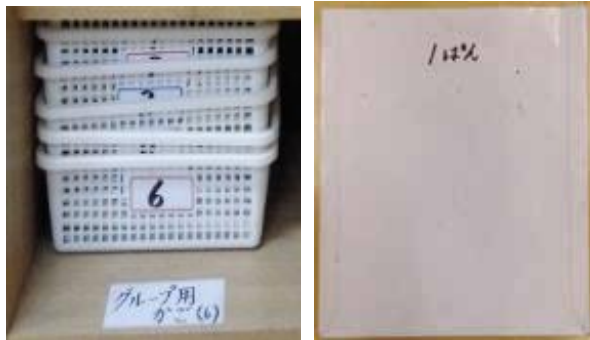
①教室環境



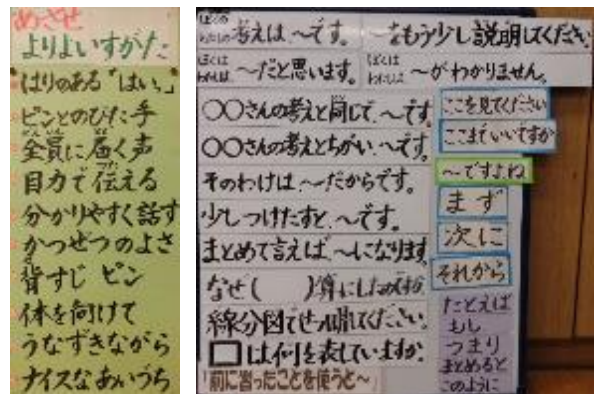
ロッカーの整理整頓の仕方を指導します。乱れる前にロッカーのチェックを呼びかけることで、整理整頓への意識が高まります。



普段使う文房具等は、使いやすく片付けやすいよう、何が入っているか視覚的に示します。



班ごとにかごやクリアファイルを用意しておくことで、プリント等が落ちたり散らかったりすることなく、スムーズに集配できます。



育てたい児童生徒の姿や対話のスキルを具体的に示すとともに、教師がモデルとなり、授業や学校生活の中で意図的に使用します。

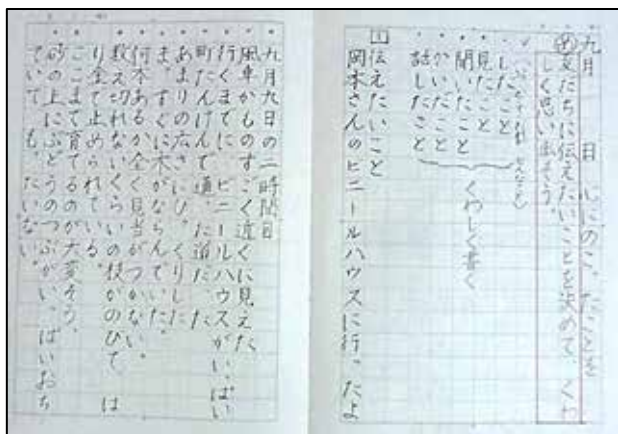


休憩時間などちょっとした時間に、学習した内容で遊んだり、さらにチャレンジしたりできるようなコーナーを作ります。

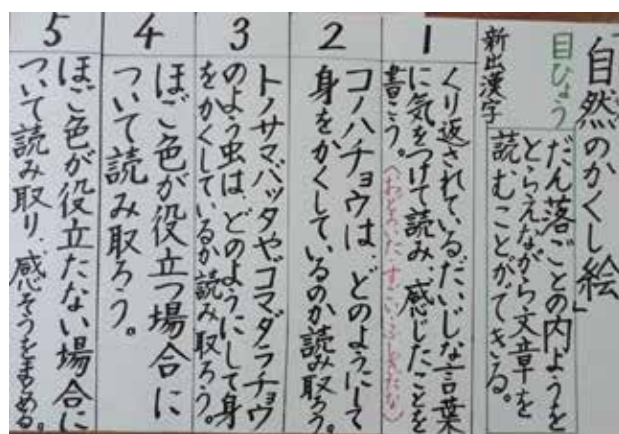


一日の終わりには机まわりを整理整頓し、明日を気持ちよく始めることができるようにします。テーマソングを流し、1番が終わるまでに片付けるといった時間への意識の高め方もあります。

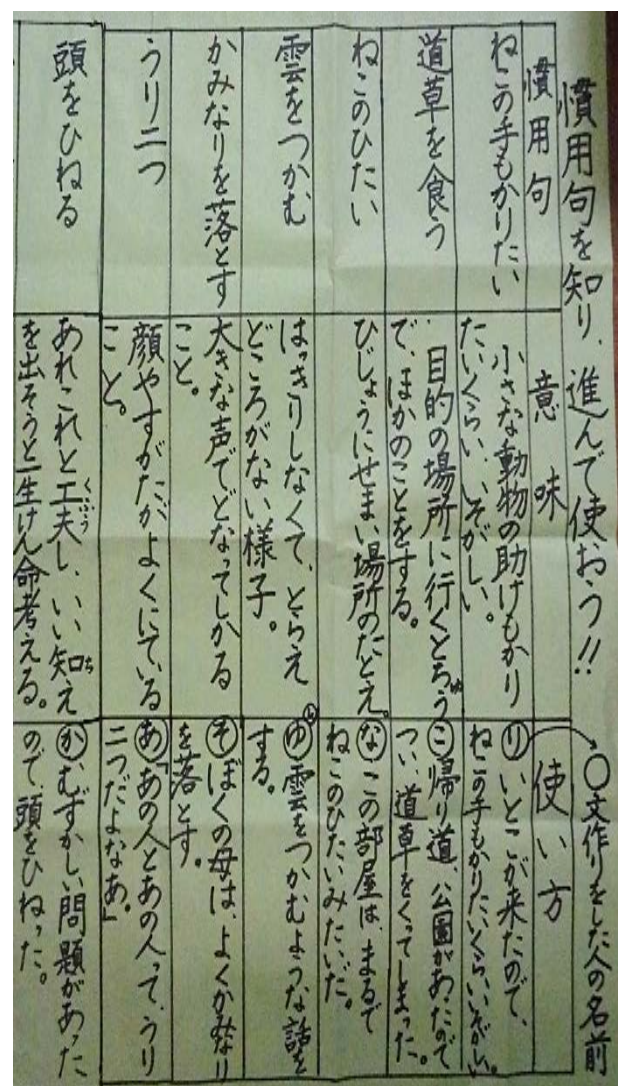
②国語における指導の工夫



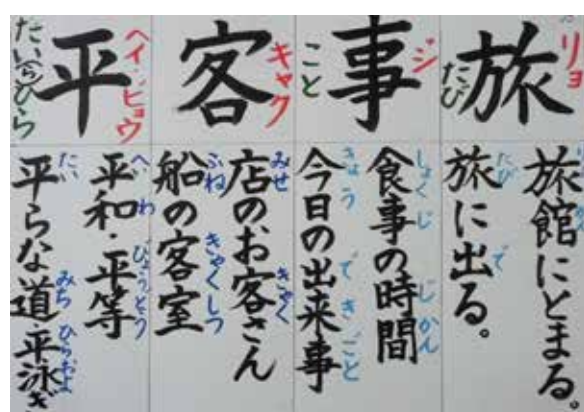
毎時間の板書計画を立てることが授業づくりにつながります。学年団で取り組むことで、お互いの研修にもなります。



単元の学習計画を示すことで、単元に見通しを持ち、安心して主体的に学習に向かうことができます。



黒板に模造紙を貼り、模造紙に板書することで、授業後も繰り返し活用できます。発言者の名前を「㊦」等で示すことにより、児童生徒の自己肯定感を高めます。

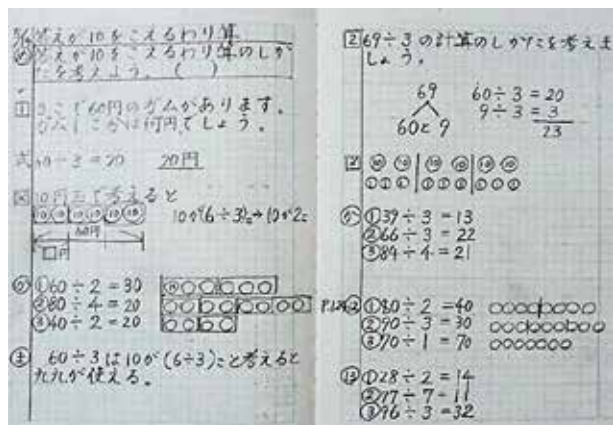


新出漢字を正しく覚えることができるよう明瞭に示します。色を効果的に使い、通年同じしし方をするすることで、学びが積み上がります。



宿題の漢字テストは答えを一緒に配布し、答え合わせで、漢字を正しく確認できるようにします。

③算数における指導の工夫



毎時間の板書計画を立てることが授業づくりにつながります。学年団で取り組むことで、お互いの研修にもなります。



よく使う教材・教具は、あらかじめ複数用意しておく便利です。



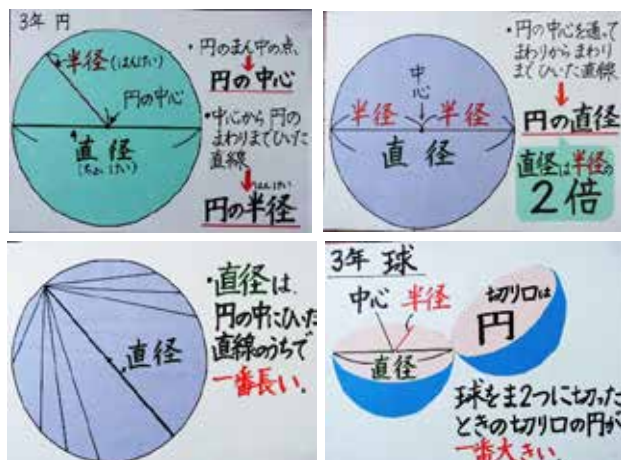
かけ算九九のシートなど、よく使うツールは複数用意しておき、机間指導しながら必要に応じて渡します。いつも使用する児童生徒には、自分に必要なツールと納得した上で持たせましょう。



短針と長針の裏に磁石を付けることで、すばやく時刻を示すことができます。

一億の位	千万の位	百万の位	十万の位	一万の位	千の位	百の位	十の位	一の位
全部の数	÷	いくつ分 (人数)	=	かたまり (1つ分の数)				
全部の数	÷	かたまり (1つ分の数)	=	いくつ分 (人数)				
かたまり (1つ分の数)	×	いくつ分 (人数)	=	全部の数				

色を効果的に使い、数や式を整理します。児童生徒の思考も整理されます。



図の示し方や説明を統一することにより、既習事項を関連付けやすくします。

引用・参考文献

- ◇「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領」(文部科学省 平成29年4月告示)
- ◇「特別支援学校幼稚部教育要領・学習指導要領 総則編(幼稚部・小学部・中学部)」(文部科学省 平成30年3月)
- ◇「特別支援学校学習指導要領 各教科等編(小学部・中学部)」(文部科学省 平成30年3月)
- ◇「特別支援学校幼稚部教育要領・学習指導要領 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)」(文部科学省 平成30年3月)
- ◇「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」(文部科学省 平成29年7月)
- ◇「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」(文部科学省 平成29年7月)
- ◇「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について(通知)」(文部科学省 平成25年10月)
- ◇「ICF 児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 平成20年3月)
- ◇「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(中央教育審議会 平成24年7月)
- ◇「教育支援資料」(文部科学省 平成25年10月)
- ◇「第1回家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト会議資料」(文部科学省 平成29年12月)
- ◇「インクルーシブ教育推進事業説明資料」(文部科学省 平成28年)
- ◇「障がいのある方のよりよい暮らしのために2020年度版(2019年12月発行)」(鳥取県 令和元年12月)
- ◇「『個別の教育支援計画』の策定に関する実際的研究」(独立行政法人国立特殊教育総合研究所 平成18年3月)
- ◇「アセスメントとプランニングに基づく子ども支援 ケース会議マニュアル」(鳥取県教育委員会 平成31年3月)
- ◇「教育相談体制充実のための手引き」(鳥取県教育委員会 平成30年7月)
- ◇「小学校・中学校管理職のための特別支援学級の教育課程編成ガイドブック-試案-」(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 平成28年3月)
- ◇「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(文部科学省 平成31年3月)
- ◇「改訂第3版障害に応じた通級による指導の手引」(文部科学省 平成30年8月)
- ◇「通級指導担当者ガイドブック」(山口県通級指導担当者専門性充実検討会議 平成30年3月)
- ◇「校内における交流及び共同学習の充実-多層的な支援システムを手がかりに-」(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所ホームページ)
- ◇「交流及び共同学習の推進に関する研究」(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 平成30年3月)
- ◇「交流及び共同学習ガイド」(文部科学省 平成31年3月)
- ◇「特別支援教育について 4.それぞれの障害に配慮した教育」(文部科学省ホームページ)
- ◇「教育の情報化に関する手引」(文部科学省 令和元年12月)
- ◇「特別支援教育教材ポータルサイト」(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所ホームページ)
- ◇「特別支援学校日常生活の指導ガイド」(秋田県教育委員会 平成30年3月)
- ◇「複式学級における学習指導改訂版Ⅱ」(奈良県教育委員会 平成27年3月)
- ◇「複式学級を有する学校のために-複式学級指導資料-」(宮崎県教育委員会 平成23年3月)

御協力いただいた学校

鳥取市立稲葉山小学校
鳥取市立湖山小学校
八頭町立八頭中学校
若桜町立若桜学園小学校
倉吉市立西郷小学校
湯梨浜町立東郷小学校
北栄町立北条小学校
琴浦町立聖郷小学校
琴浦町立八橋小学校
米子市立啓成小学校
米子市立就将小学校
米子市立弓ヶ浜小学校
鳥取県立鳥取盲学校
鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校
鳥取県立倉吉養護学校



<発行> 鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課

住 所 〒680-8570鳥取市東町一丁目271

電 話 (0857) 26-7574

ファクシミリ (0857) 26-8101

本手引は、鳥取県教育委員会ホームページからダウンロードすることができます。

<鳥取県教育委員会ホームページ>

<https://www.pref.tottori.lg.jp/123222.htm>

